

Japanese  
Expectation  
51-0930E

## 期待

ニューヨーク ニューヨーク州 アメリカ合衆国  
1951年09月30日



[www.messagehub.info](http://www.messagehub.info)

ウィリアム・マリオン・ブラハム

"...第七の御使が吹き鳴らすラッパの音がする時には、神がその僕、預言者たちにお告げになったとおり、神の奥義は成就される。" 黙示録 10:7

## はじめに

際立ったウィリアムブラナムのミニストリーは、マラキ4章4,5,6及びルカ書17:30と黙示録10:7と多くの聖書の預言に対する聖霊からの答えなのです。この世界規模のミニストリーはこの終わりの時に聖霊による神の御業の継続なのです。それは聖句の中にあり、イエスキリストの再臨のためにある人々を整えるために立ち上げるために必要とされていると書かれています。

あなたが祈り深くこのメッセージを読むとき、この印刷された御言葉があなたの心に刻まれるようにと祈ります。

メッセージの正しい転写、翻訳を提供できるように最善を尽くしておりますが、英語の録音がウィリアムブラナムによって語られた説教をもっともよく表しているものです。

オーディオや転写された1100の説教がウィリアムブラナムによって語られたものが無料でダウンロード可能で又多くの言語で印刷可能になっています。(日本語での翻訳あり)

変更が行わないかぎり、メッセージを無料でコピー、配布することは許可されています。

この建物から歩いて出て行き、  
叫び、賛美し、  
完全な勝利をもって帰って行くことができますように。

## 期待

1 皆さん、こんばんは。

今晚もまた、病の方々のために祈るため、ここに来ることができて本当にうれしく思っています。

ただ残念なことに、これが今回のリバイバル集会の最終の夜となってしまいました。

もし主が許してくださり、また皆さんが私たちを必要としてくださるなら、いつかまた必ず戻って来たいと願っています。

その時には、短い集会ではなく、腰を据えて、十分な期間ここに留まり、続けて集会を行えるような、そんな長い集会ができればと心から思っています。

というのも、集会における一つの悲劇は、会場を十分な期間借りることができず、本来あるべきところまで集会を導いていけないことなのです。

多くの場合、人々のうちに働き始めた結果が、はっきりと現れ始める前に、私は次の場所へ行かなければならなくなってしまいます。

それでも、皆さんとの交わり、皆さんの親切、そしてこれまでしてくださったすべてのことを、私は心から感謝しています。

私は生きている限り、皆さんのことを決して忘れません。

主が皆さんを祝福してくださるように——それが私の祈りです。

そして、どうかこれからも私のために祈り続けてください。

皆さんがクリスチャンであるなら、きっとそうしてくださると信じています。

私はこれから、世界の他の地域へと向かい、福音を携えて、必要としている人々、また他の国々にいる顧みられない人々のもとへ行こうとしています。

そのために、私は皆さんの祈りを心からお願いしたいのです。

どうか神が皆さんと共にいてくださり、助け、導いてくださいますように。

2 感謝を申し上げたいと思います。

バクスター兄弟が、皆さんが私のために愛の献金を取ってくださいと、たった今知らせてくれました。

本当にありがとうございます。

しかし正直に申し上げて、私は愛の献金をいただくに値する者ではありません。

それにふさわしいほどのことを、私はしていないのです。

本来なら、私はそれを受け取るつもりはありませんでした。

私はおよそ十五年間、教会の牧師をしていましたが、その間、自分のために献金を受け取ったことは一度もありません。

生涯を通して、自分のために、あるいは他の誰かのために献金を受け取ったことは一度もないのです。

私は常に働き、自分の手で生計を立ててきました。

ですが、このように各地へ行くと、皆さんが愛の献金を用意してくださいます。

これが、私たちがこの働きを続けていくための支えとなっています。

私は家族を持っていますし、彼らを養うための手立ても必要なのです。

そして——ここに座っている私の妻もよく知っていますが——

私たちが自分たちの生活のために使わないお金は、一円たりとも無駄にしません。

私たちは贅沢な生活をしているわけではありません。

ただ、必要最小限で、慎ましく生きているだけです。

その上で、愛の献金の中から生活費を差し引いた残りは、すべて海外宣教のために、主の働きへとそのまま戻しています。

私たちが求めているのは、この世のものではありません。

私たちが目を向けているのは、天のものなのです。

イエス・キリストの御名によって、病んでいる皆さん、立ち上がりなさい。  
癒されましょう。

81 互いに手を置きなさい。そう、それでいい。

あなたがたは今……(働きが起きています)

互いに手を置きなさい。

手を上げて、神に向かって両手を挙げなさい。

全能の神よ、

いのちの創始者、あらゆる良き賜物を与えてくださるお方よ、

この民の上に、あなたの祝福を送ってください。

主よ、彼ら一人ひとりを癒してください。お願いいたします。

イエス・キリストの御名によって、

私はこの会衆の中にある病を呪います(叱責します)。

主よ、ここにいる車椅子の人たちが、

イエス・キリストの御名によって立ち上がり、

癒されますように。

ああ、全能の神よ、いのちの創始者よ、

今、聖霊がここにいるすべての人の上に降り、

あなたの神聖な力で彼らを包んでください。

(不明瞭)……信仰の……主よ、

彼らがこの決断をし、

主イエス・キリストの御名によって立ち上がり、

神をあがめ、

あなたは関節炎がありましたね。

でも、あなたはさっき、そこに座っている間に癒されました。

立ち上がって、それを受け取りなさい。

主イエスの御名によって癒されなさい。

ほら、そうです。

それが癒されるということです。

80 ずっと後ろの方——こちらを見て、心を尽くして信じなさい。

後ろの方で、神が私を遣わして御業をさせておられると信じる人は、手を挙げてください。今、ここに座っている一人の婦人が見えます。何かが起きています。

青い服を着ていて、ここ——脇のあたりに花を留めている。

色は——ピンクっぽい花です。その婦人は胃の不調で苦しんでいます。

ずっと上のバルコニーの、手すりの近くに座っている方です。

姉妹、立ち上がってください。そこのあなたです。こちら側のバルコニーで、青い服にピンクの花——あなたです、はい。立ってください。あなたは胃が悪かったですね？

それが本当なら手を挙げてください。……よろしい。

あなたは癒されました。主イエスの御名によって、家へ帰って健やかになりなさい。

この中にいる誰でも、今すぐ神の栄光のために癒されることができます。

私たちはここで、あと三十分でも立っていられます。信じますか。

そこの姉妹、あなたもです。あなたは歩けます。

神に求めさえすれば、あなたはできるのです。……(不明瞭)

あなたもです、兄弟。そこに座っている必要はありません。あなたは癒されます。

いつの日か——詩人がこう言ったように。

「天幕であろうと小さな家であろうと、私は気にしない。

あちらでは、私のために宮殿が建てられているのだから。

ルビーにダイヤモンド、銀と金、

主の倉は満ちており、その富は尽きることがない。」

3 さて、ここであまり時間を取り過ぎて話すつもりはありません。

ただ一言、皆さんに「これまでのすべての親切に、心から感謝します」とお伝えしたかったのです。

そして、もしこの働きの中で、誰かに荣誉や評価が与えられるとするなら

それは、今これからお話ししようとしている一人の人にこそ向けられるべきだと思っています。

人々はよくこう言います。

「ブラナム兄弟、あなたは本当に大変ですね。ひっきりなしに人が訪ねて来たり、呼び出されたりして」と。

でも私は、それが好きなのです。それは私の人生の一部なのです。

さて……私たちの家には、とても愛らしい小さな家族があります。

私の最初の家庭は、もうずいぶん昔に、死によって引き裂かれました。

結婚して、ほんの二年余りでした。

ビリーの母——私の最初の妻は、赤ん坊と共に主のもとへ召されました。

その時、私は神に対して誠実に生きようと努めました。

私は小さな我が子の頭に手を置き、祝福しました。

すると、神の御使いたちが来て、その小さな魂を母親のもとへと抱いて連れて行ったのです。

私は、その子の小さな体を母親の体と一緒にし、二人を共に埋葬しました。

それ以来、ビリーと私は毎年その墓を訪れ、花を手向けています。

一つの確信を胸に抱きながら——

ある栄光の日の夜明けに、イエスが来られるということを知っているからです。

私は、二度と結婚することなどないと思っていました。

やがてビリーも学校へ行ける年齢になりました。

ちょうど昔のヨブのように——

彼から奪われたものを、神は再び与えてくださいました。

それは、私の選択ではありませんでした。

神ご自身が、私に伴侶を与えてくださったのです。

その人は、私にとって真の愛する人であり、ビリーにとっては本当の母となってくれました。

彼女はまだ若い女性です。

私よりずっと年下です。

しかし福音の働きの中で、一生懸命に労してきたため、三十歳にして髪が白くなるほどでした。

そして彼女は、間違いなく、私たちの家庭にとって真の「女王」です。

愛しい人、少しの間、立ってもらえますか。

彼女は今、私のすぐ前に座っています。

少し目立ってしまいましたが……

あそこに立っているのが、私の妻、ブラナム兄弟の妻です。

彼女はとても控えめで、内気で、小さな……

いくらでも、いくらでも、続いて行くでしょう。

あなたは心を尽くして信じますか。

ほら、あの小柄な人——いや、あの男性です。

あそこで私を見て座っている。

その婦人のすぐ後ろに座っている方です。

あの男性は、たぶん脱腸(ヘルニア)のような状態で苦しんでいる。

後ろに座っているあなたです。そうでしょう、兄弟？

立ち上がって、手を挙げなさい。

そして、主の御名によって癒しを受け取りなさい。

その通りです。

それから、あなたのすぐそばに、もう一人の男性が座っています。

ベストを着て、ネクタイをしている方。

こちらを見えていますね。

あの人には大きな信仰があります。

兄弟、立ち上がってください。

あなたはがんで苦しんでいます。

しかし今、主イエスの御名によって癒されました。

行きなさい。健やかになりなさい。アーメン。

さあ、心を尽くして信じますか。

ここに、こちら側に座っている男性がいます。

髪が薄く、小さなチェック柄の蝶ネクタイをしている方。

そこです、兄弟。

はい……いいえ、そうです。

立ったなら——あなたも。お二人とも、そこでちょっと立っててください。

よろしい、姉妹。こちらを見て、私を信じなさい。

心を尽くして信じますか。

さて、皆さん、みんな立ち上がらないでください。

そうすると、姉妹の前に来ている幻を妨げてしまいます。

まず、私は彼女を見たいのです。——この方です、ここ。

はい、兄弟。

あなたは 神経の不調 で苦しんでいますね。そうでしょう？

そうでしょう？

もしそれが真実なら、手を挙げてください。

あなたは今、癒し主として主を受け入れますか。

キリストの御名によって、癒されなさい。

アーメン。

では、あなたはどうです、姉妹。

帽子に白い飾りを付けて立っている方。

心を尽くして信じますか。心を尽くして。

あなたは 心臓の患い——心臓の状態が悪いですね。そうでしょう？

手を挙げてください。

イエス・キリストの御名によって、癒しを受け取りなさい。

アーメン。

79 友よ、これはもう——終わりがありません。

私たちは田舎育ちの男女なのです。

4 私はこれまでの人生で、何人もの良い相棒を持ってきました。

狩りの良い相棒たちです。

私は狩りが好きで、よく出かけます。

私が最初に狩りを覚えたのは、ニューヨーク州でした。

今でも、これまでに見たどんな場所よりも、アディロンダック山脈が大好きです。

本当に、あの山々以上の場所はありません。

そして私は、今、とても素晴らしい狩りの相棒を持っています。

私は妻のことを「ハニー」と呼び、

小さな娘のことを「シュガー」と呼んでいます。

ですから、私たちは“甘い家族”というわけです。

娘は母親と同じように、とても恥ずかしがり屋ですが……

もしよければ、うちの小さなレベッカ、ちょっと立ってくれますか。

……ああ、これは大変なことになりそうですね。

ほら、もう頭を下げています。

どうだい、ここへ来て、お父さんと一緒に少し立って見ないかい。

皆さんに、「本当の狩りの相棒」が誰なのか、見てもらいたいんだ。

恥ずかしがらなくていいよ。

ほら、もう顔が真っ赤だ。

それでも、頭を下げたまま、そこに座っていますね。

いいよ、ハニー。

ああ、まったく……。

さて、ビリー・ポールですが……

彼のことは、皆さんもよくご存じでしょう。私の息子です。

ビリー、どこにいる？

この辺にいるはずですが。

彼は、祈りのカードを配るという、とても大変な役目をしています。

実はこれは、集会の中で一番大変な仕事なのです。

これまでに三人、四人の人が、この役目で心身を壊してしまいました。

そして今、ビリーがそれを引き受けています。

まだ十六歳の少年ですが、なかなか厳しい働きです。

しかし、主が許してくださるなら、

彼は私と共にアフリカから戻り、その後、ボブ・ジョーンズ・カレッジに入って学業を終える予定です。

その後、人生の旅路において、神が彼に選ばれた道を歩むことになるでしょう。

私は、神が彼に召しを与えてくださることを、心から願っています。

5 家を離れ、愛する者たちから離れるということは、決して簡単なことではありません。

今、家には小さな娘がいます。名前はサラ。

黒い髪に黒い瞳の、とても愛らしい子で、これ以上なく可愛い娘です。

私は心の底から彼女を愛しています。

私たちは先日、その子を家に残して出て来ました。

妻はここまで同行してくれましたが、彼女たちは明日の朝、家へ戻ります。

その一方で、私たちは福音のメッセージを携えて、アフリカへと飛び立ちます。

(※一部不明瞭)

しかし、神はあなたを癒すことがおできになります。

見てください、友よ。

問題は“身体が不自由だから”ではないのです。

人はあるところまで行くと、「自分にはもうできない」と思い込んでしまう。

今も同じ霊が、これらの人たちの間で動いています。

ただ、必要なのは——ほんの少しの信仰です。

もしあなたが同じことをするなら、

あなたは今夜、この建物から歩いて出て行くでしょう。

私は誰ひとり癒すことはできません。

もし私にできるなら、私はそうします。

でも私ができるのは、ただ一つ——

あなたが信仰を受け取り、信じるように導くことだけです。

私は、この建物にいる誰にでも言います。

こちらを見て、神が私を遣わされた信じ、

私の証しが真実だと信じなさい。

そうすれば、神があなたを癒されます。

その通りです。

神がそれをなさいます。

78 今、ここに座ってこちらを見ている婦人が見えます。

黒い帽子、それに暗い色の服を着ています。

姉妹、そこで立ち上がってください。そう、あなたです。

アーメン。

心を尽くして信じなさい。

(途中欠落)「……頼りすぎはいけない／……尋ね続けてはいけない……」

77 そこに座っているその方——あなたですよ、兄弟。

私を見えていますね。

こちらを見て、私を神の預言者だと信じなさい。

信じますか。

よろしい。

私はあなたのことが分かります。

あなたは 多発性硬化症 で苦しんでいます。

しかし、神があなたを癒し、健やかにして下さいます。

……そうでしょう？

本当なら、手を挙げてください。

……はい。

あなたがそれを信じるなら、神はあなたを癒されます。

信仰を持ちなさい。疑ってはいけません。心を尽くして信じなさい。

ああ、なんと素晴らしいことでしょう。

麻痺もそうです。

でも神はあなたを癒し、健やかにすることがおできになります。

そうでしょう？

麻痺している——私は何が起きたかも見えます。

あなたの手足が引きつって、縮こまるようになっている。

どうか、彼女たちのために祈ってください。

妻は、正しいことと誤ったことの間立ち、私を守り、支えてくれる人です。

彼女は、まるで戸口に立ち、私を守る盾のような存在なのです。

彼女のためにささげてくださる皆さんの祈りを、私は心から感謝しています。

どうか神が、私たちを再び安全に共に帰らせてくださいますように。

6 さて、集会の中では、実に多くのことが語られ、また行われます。

しかし、はっきりさせておかなければならないことがあります。

私たちは、誰一人として癒すことはできません。

それは、私たち自身がよく分かっていることです。

私たちは、誰かを癒すなどとは決して主張しません。

私たちがしているのは、ただ病の人のために祈ることだけです。

癒しを行われるのは、神ご自身なのです。

主が私に与えてくださったこの奉仕は、

他の牧師たちの奉仕とは、少し異なっているかもしれません。

けれども、神は御心のままに、それぞれに賜物を分け与えられるお方です。

皆さんも、そう信じますね。

神は、ただ御心のままに、それをなさるのです。

そして私たちは知っています。

神は実在しておられ、熱心に神を求める者に報いてくださるお方であるということ。

それでよろしいですね。

さて、ここで少しだけ聖書を読み、すぐに礼拝の働きに入ります。

今夜、神は私たちに素晴らしい集会を与えてくださると、私は信じています。

先ほど私は息子と一緒に祈っていましたが、その時、フォード牧師が私を迎えに来られました。

今夜、神が特別なことを行ってくださり、人々を祝福してくださるよう、と祈っていたのです。

たいていの場合、最終の夜には、他のどの夜よりも多くの人が癒されます。

それは、人々の間にある大きな期待、切実な求め、

そして「祈りの列に入りたい」という強い引き寄せが、最も高まるからなのです。

7 さて、私自身が誰かを癒すわけではありません。

しかし今夜、私は神にお願いしました。

この建物の隅から隅まで、あまねく人々を癒してくださるとい、特別な御業を行ってくださるよう、と。

私は、それを神にさせていただきたいのです。

そして私は、神がそれをなさることを知っています。

というのも、私はこれまでの人生で、

神の御心になかったことについて、心から真剣にひざまずいて祈った時に、

神がそれに答えてくださらなかったことは、一度もありません。

一度も、です。

しかし時には、自分の思いが正しくなかった時、

あるいは、どこか自己中心的な動機で祈った時には、

その祈りは何の役にも立たなかったこともありました。

そうでしょう、姉妹？

もしあなたが、ほんの少しでも信仰を使うなら——

そこにいる看護師さんが持っているような信仰を持つなら——

あなたはその車椅子から出て、

この会堂の中を歩いて通り、

家へ帰って、もうそんなことは忘れてしまえる。

あなたは癒されます。

私はあなたの幻は見えます。

けれど、私があなたを癒すのではありません。

そして、こちらで手を挙げて座っている紳士。

お父さん、あなたはどう思いますか。

私を神の預言者として信じますか。

あなたは私にとって見知らぬ人です。

でも、あなたは足に装具をつけていますね。

あなたに起きたことはこうです。

あなたは事故に遭って、股関節を骨折した。

それが治らないのです。そうでしょう？

もしその通りなら、手を挙げて、こうやって振ってください。

……はい、その通り。

神を信じなさい。

神があなたの股関節を癒されます。

あなたは家へ帰って、健やかになります。

さて、車椅子の人たちのことを不思議に思う人がいますね。  
 ちょっと待ってください。信仰を持ちなさい。恐れてはいけません。  
 見てください。私はあなたがたを見ています。  
 でも問題は、多くの場合——  
 人が車椅子に座るようになると、こう思ってしまうことです。  
 「もうだめだ。私は望みがない。  
 医者が“無理だ”と言ったんだ。」  
 そして、あなたはそれを信じてしまう。  
 あなたがそれを信じている限り、  
 その通りになってしまうのです。  
 私はあなたを見ています。  
 私は何晩も続けてあなたを見てきました。  
 たくさんのことを見てきました。  
 私は、ここに座っているこの婦人を、  
 この二晩か三晩ずっと見ています。  
 毎晩、幻が彼女の上に来るのを見ています。  
 そして私は、その女性の何が問題かを知っています。  
 もちろん、彼女に「どこが悪いか」を言うことはできます。  
 しかし、私が癒すことはできません。

76 あそこに座っている姉妹は、何か発作のようなものがあります。  
 急に力が抜ける発作です。  
 立ち上がろうとすると、前へ倒れ込むようになってしまう。

なぜなら、そのような祈りは、祈ったそばから自分のところへ戻って来てしま  
 まい、  
 最初から、それが聞かれるという信仰すら持てないからです。  
 ただ、無理に突破しようとしているだけなのです。  
 しかし——  
 正しくないものを、神から引き出すことはできません。  
 それは、必ず正しいものでなければならないのです。

8 さて、これから神の祝福された御言葉の中から、二つの箇所をお読みした  
 いと思います。  
 もしよろしければ、私と一緒に、あるいは私に続いてお読みください。  
 まず、マタイによる福音書 第4章23節からお開きください。  
 それから、次に、ルカによる福音書 第2章25節をお開きください。  
 ——失礼しました、第1章ではなく、第2章です。  
 今日、この二つの箇所を読みたいと思います。  
 一つは、主イエスの公の奉仕が始まった時の箇所。  
 もう一つは——  
 主の死の場面ではなく、失礼しました——  
 主のご誕生の時に関する箇所です。  
 まず、マタイによる福音書 第4章23節。  
 ここは、イエスがちょうどその奉仕を始められたところです。  
 それから、イエスはガリラヤ全地方を巡り、  
 諸会堂で教え、  
 御国の福音を宣べ伝え、

民の中のあらゆる病気、あらゆる患いを癒された。  
 こうして、イエスの評判はシリア全土に広まり、  
 人々は、さまざまな病や苦しみに悩む者、  
 悪霊につかれた者、てんかんの者、中風の者など、  
 すべての病人をイエスのもとに連れて来た。  
 イエスは彼らを癒された。  
 すると、ガリラヤ、デカポリス、エルサレム、ユダヤ、  
 そしてヨルダンの向こうからも、  
 大勢の群衆がイエスに従った。  
 そして次に、ルカによる福音書 第2章25節をお読みします。  
 その時、エルサレムにシメオンという人がいた。  
 この人は正しい人で、信仰が厚く、  
 イスラエルの慰められるのを待ち望んでいた。  
 そして聖霊が彼の上にあった。  
 彼は、主のキリストを見るまでは  
 決して死を見ることがないと、  
 聖霊によって告げられていた。  
 彼は霊に導かれて宮に入った。  
 そして、律法の慣習に従って  
 幼子イエスのために行うため、  
 両親がその子を連れて来た時、  
 シメオンは幼子を腕に抱き、

彼女は胃酸の強い胃で苦しんでいました。  
 長い間、ほとんど食べられなかったのです。  
 私は見ました。  
 彼女が顔を横に向けて、吐いてしまう。  
 そして顔を洗い直して……  
 ふらふらして、倒れそうになる。  
 そんな状態でした。  
 でも、今はもう大丈夫です。  
 それは、その苦しみを通っていない人には、  
 あまりピンと来ないかもしれない。  
 けれど、もしそれがあなたのことだったなら——  
 あなたはきっと、きっと、心から感謝したはずです。  
 (※テープ欠落)

- 75 よろしい、姉妹。あなたは椅子に座っていますね。  
 心を尽くして信じますか。  
 そのまま前を通って、私の手を握りなさい。  
 私を神の預言者として信じますか。  
 そうすれば、あなたはその腫瘍を通り抜けて行きます。  
 主の御名によって、行きなさい。  
 さあ、言いましょう。  
 「主をほめたたえよ。」  
 「わがたましいよ、主をほめたたえよ。」

もし、そのような子が会衆の中にいるなら——

その子は癒されました。

私はその子が私の前に来るのを見ました。

白いシャツを着ていて、少しぼんやりした小さな男の子。

背の高さはこのくらいで、心臓の患いで苦しんでいました。

もし、その子がここにいるなら、親御さん、

もう恐れなくていい。

その子は——その子は元気になります。

74 よろしい、姉妹、前へ来てください。

心を尽くして信じますか。

それなら、あなたの心臓の患いは終わりました。

よろしい。

それから、もう一つ見えます。

はい、あなたは胃の不調もありましたね。そうでしょうか？

では、もう今から、食べたいものを食べなさい。

信じますか。

それだけでいいのです。……(不明瞭)……

神があなたを祝福されますように。

さあ、言いましょう。

「主をほめたたえよ。」

それが、あなたには大したことに思えないかもしれませんが。

でも、彼女にとっては——それがどれほどのことか。

神をほめたたえて言った。

「主よ、今こそあなたは、

お言葉のとおり、このしもべを安らかに去らせてくださいます。

この目で、あなたの救いを見たからです。」

9 しばらくの間、頭をお下げください。

全能の神よ、

今夜、この素晴らしい教えを与えてくださったことを、私たちは感謝いたします。

聖書にこう書かれています。

主はユダヤ全土、サマリヤ、デカポリス、

当時知られていた世界の至る所を巡られ、

善を行い、病人を癒し、悪霊を追い出し、

捕らわれている者を解放されました。

そして私たちは知っています。

あなたは、その日から少しも変わっておられないということ。

質問された時、あなたは

「父が示されたことを、わたしは行っている」と言われました。

また父への祈りの中で、

「わたしに与えられた働きを、わたしは成し遂げた」と言われました。

その後、聖霊が人々の上に臨み、

福音は、時代の終わりまで継続されなければならないのです。

そして主よ、今ここにいる私たちは、

この時代の終わりに立っています。

主よ、私たちはこの偉大な都市、ニューヨークを感謝します。

多くの者が興り、また倒れていった場所です。

また、私たちはアメリカを感謝します。

自由の国、勇者の故郷であるこの国を。

主よ、私たちは理解しています。

今夜、ここで自らの良心に従って礼拝できる自由のために、

どれほど多くの尊い血が、最高の犠牲として流されたかを。

神よ、どうか私たちの国を祝福してください。

10 今夜、どうか韓国にいる私たちの若者たちを覚えてください。

神よ、もし、もっと多くの宣教師が遣わされていたなら、

このような事態は起こらなかったのではないかと、私は思わずにはられません。

私たちには、機械のためのお金はあります。

あらゆるものための資金はあります。

しかし、あなたの働きとなると、どういうわけか、いつも後回しにされてしまうように思えるのです。

父よ、もし防衛のために使われたそのお金が、

宣教師たちを現地へ遣わすために使われていたなら、

戦争は起こらなかったのではないかと、私は信じています。

しかし、これもまた、そうなるべき道なのかもしれません。

ですから主よ、どうか私たちが、自分に与えられた役割を果たすことができるよう助けてください。

そして今夜、ここ祖国で行われてきたこの一連の集会の最終の夜にあたり、

会衆の中にいる人たちも、今すぐ皆癒されるでしょう。

その通りです。

神を信じなさい。疑ってははいけません。

よろしい。次の姉妹、来てください。

心を尽くして信じますか。

もう一度、以前のように、しっかり食事をしたいでしょう？

あなたは私を神の預言者として信じますか。

では、何でも食べなさい。

イエス・キリストの御名によって、癒されなさい。

さあ、言いましょう。

「主をほめたたえよ。」

このように神をほめたたえましょう。

ああ、いいですね、それです。

さあ、敬虔に。

73 今、私は一人の小さな子どもが癒されたのを見ました。

白いシャツを着ている子です。心臓の患いがありました。

どこに座っているか、はっきりとは分かりません。

右側のほうにいらっしゃるよう見えます。

皆さん、敬虔に。

白いシャツを着た男の子——少しぼんやりした感じの小さな子で、

年は八歳くらい。心臓の患いがありました。

さあ、皆さん、敬虔に。

椅子に座るような状態になると、  
「もう自分は何もできない」「どうにもならない」——  
そんなふうに感じてしまう。  
でも、違います。  
あなたは無力でも、望みが無いのでもありません。いや、決して。  
イエス・キリストはあなたを愛しておられる。  
そして、あなたを癒したいのです。  
さあ、今は敬虔に。  
よろしい。患者さんをお連れください。  
……はい、姉妹。  
ああ……あなたは、状況の犠牲者のように見える。  
人生でたくさんの苦しみを見てきましたね。  
さて、あなたは今、背中痛みで苦しんでいる。  
背中全体に、いつも痛みがある。  
それから、脾臓が腫れている。  
そして、心臓の患いもあった……  
でも今は、もうありません。  
あなたの信仰が、あなたを癒しました。  
家へ帰って、健やかにになりなさい……。  
そう、その調子です。  
その通り。  
もしあの姉妹のような信仰を持てるなら、

神よ、たとえ私がどこへ行こうとも、  
私は決して忘れません。  
空高く伸びる松の木々、  
私が生まれた時から掲げられていたあの古い国旗、  
そして、この国中にいる愛する友人たちのことを。  
神よ、どうか彼らを祝福してください。  
彼らを助け、支えてください。  
そして、私たちが留守にしている間も、  
この大なるリバイバルが続き、  
何千もの魂が勝ち取られていきますように。  
11 この偉大な都を祝福してください。  
主よ、どうかこの町にリバイバルを送ってください。  
今、各地で奉仕しているあなたの僕たちを、  
この町へと遣わしてください。  
そして、この大きな都を、神のために大きく揺り動かしてください。  
あなたの僕たちが来る時——  
ビリー・グラハム兄弟たちが来る時、主よ、  
彼らの上にあなたの御霊を注いでください。  
文字どおり、何千もの魂が救われ、  
キリストへと立ち返ることになりますように。  
主よ、私たちが畑を耕すように働いている中で、  
茨を刈り取り、石を取り除き、切り株を引き抜く

その最前線に立つ私たちを助けてください。  
 主よ、勇気を与えてください。  
 大きく、強い心を与えてください。  
 よろいをしっかりと締め、  
 あなたの御霊の力と大なる強さを与えてください。  
 そして今、主よ、ブラウン姉妹——あのやもめを祝福してください。  
 神よ、彼女と共にいて、助けてください。  
 バード兄弟、牧師を祝福してください。  
 また、この町中で協力している諸教会、  
 協力教会すべて、  
 一人ひとりの信徒を、共に祝福してください。  
 父よ、どうか私たちを、速やかに再びここへ戻してください。  
 アフリカとその地において、大きな勝利を与え、  
 そして再びこの地へ連れ戻し、  
 もう一度、古き良きリバイバルを与えてください。  
 それを、どうか成し遂げてください、主よ。

12 今夜、ここに集っているすべての人々を祝福してください。  
 主よ、私が彼らを離れて行くにあたり、  
 私の小さな家族を祝福し、  
 あなたの恵みによって支えてください。  
 どうか神の御使いが、  
 今、私たちを下から支え、助けてくださいますように。

神があなたを祝福されますように。  
 さあ言いましょう。  
 「主をほめたたえよ。」  
 よろしい、姉妹。あなたはそこに座ったままで信じますか。  
 もし私が、神の御霊によって、あなたの問題をその場で言い当てたなら、  
 あなたは今すぐ癒しを受け取りますか。  
 あなたは腫瘍がありましたね。そうでしょう？  
 壇上を降りて行きなさい。  
 もうそれを自分のものとして言い続けてはいけません。  
 イエスの御名によって癒されなさい。  
 あなたは心を尽くして信じますか。  
 そこの上の方、あなたはどう思いますか。  
 敬虔でいなさい。敬虔に。  
 そうすれば、神が成し遂げてくださいます。  
 疑ってはいけません。  
 いつも信仰を持ちなさい。  
 神が——あなたを癒してくださいます。

72 私は、ここに椅子に座っているこの女性を見ています。  
 そして、あの男性もです。  
 兄弟、私は今夜、あなたがたがその椅子から立ち上がって、歩くのを見たい。  
 私はそう願っています。だから、信じなさい。  
 時々、人はこう思ってしまうんです。

「偉大な癒し主であるイエス・キリストが、私を癒してくださった」と  
伝えることができますように。

私は、イエス・キリストの御名によって、この喘息を呪います。

今から後、この子が癒されますように。

アーメン。

神があなたを祝福されますように、かわいい子。

家へ帰って元気になりなさい。

さあ、言いましょう。

「主をほめたたえよ。」

71 よろしい、兄弟、来てください。

こんにちは、兄弟。心を尽くして信じますか。

あなたは苦しんでいますね。

心臓にも何かあります。そうでしょうか？

心臓の患いがあります。

それだけではありません。

あなたは関節炎もあります。そうでしょうか？

あなたは、私を神の預言者として信じ、従いますか。

では、両手を高く上げなさい。

そして、足をドン、ドンと踏みなさい。(上下に。)

もう二度と「関節炎がある」などと言ってはいけません。

壇上を降りて行きなさい。

あなたは関節炎も、心臓の患いも——全部癒されました。

バクスター兄弟、ボスワース兄弟、

そして彼らの家族を祝福してください。

彼らもまた、旅立とうとしています。

また、ここに共に立っている

リッチー兄弟、

そして他の愛する友人たち、主よ、

多くの牧師たちが祈りのうちに、

神の御前で私たちの手を取り、支えてくれています。

それは、昔のカレブやヨシュア、

そしてモーセの手を支えた者たちのようです。

主よ、今夜、あなたの祝福を豊かに注いでください。

あなたご自身を現し、

確かに、あなたがここにおられることを、証し(証明)してください。

これらのことを、

イエスの御名によってお願い致します。

アーメン。

13 少しだけお話しさせてください。

本当は、この時間さえ取るのもためらうのですが、

皆さんとお別れする前に、どうしても一言、二言、言っておきたいのです。

私が最初にニューヨークへ来た時、正直に言って、こう思いました。

「ここは裕福な貴族階級の人たちばかりで、

福音など決して受け入れないだろう」と。

しかし、私は完全に間違っていました。

これまでに会った中で、最も優しく、最もへりくだった人々の何人かは、このニューヨークで会った人たちでした。

それは本当です。

街にはあまりにも多くの人がいて、なかなか一人ひとりと会うことはできませんが……。

今夜、私たちが軽い食事をしていた時のことです。

ある人たちが入って来て、こちらを見て、にこっと微笑みました。

私は心の中で、「ああ、きっとクリスチャンだな」と思いました。

しばらくすると、その人たちは私の手を握り、こう言いました。

「はい、私たちはタバナクルから来ました。

グラッド・タイディングス・タバナクルです。」

その時、私は改めてこう思ったのです。

外へ出た時、私は妻にこう言いました。

「フィンランドでも、スウェーデンでも、ドイツでも、フランスでも、ベルギーでも、どこへ行っても同じだ。

御霊によって生まれた人たちは、世界中どこでも同じだ。」

なぜなら、私たちは皆、キリスト・イエスにあって一つだからです。

御国の同じ市民であり、この収穫の畑において共に働く同労者なのです。

主イエスの御名によって、家へ帰って癒されなさい。

70 さあ、姉妹、来てください。

信仰を持ちなさい。信じなさい。

あそこに暗い服で立っている小さな姉妹——

信じ続けなさい。

今ちょうど、あなたの方へしばらくそれが動いて行きました。

信仰を持ちなさい。信じなさい。疑ってははいけません。

こんにちは、姉妹。

心を尽くして信じますか。

あなたの胃の不調は良くなります。

家へ帰って、食べたいものを食べなさい。

そしてこう言いなさい。

「神様、私の胃を癒してくださってありがとうございます。」

よろしい。さあ、言いましょう。

「主をほめたたえよ。」

さあ、こっちへおいで、かわいい子。

喘息を治したいんだね？

よし、こっちへ来て、ブラナム兄弟に腕を回しなさい。

天の父よ、

この子に憐れみを施してください。

全能の神よ、

この子がこの証しを自分のカトリックの人たちのところへ持ち帰り、

さあ、言いましょう。

「主をほめたたえよ。」

皆さん、敬虔に。心を尽くして信じなさい。

私が「背中痛み」と言った時、何かが打たれました。

同情の霊が反応したのです。誰かが……。

ちょっと待ってください。

今、同じこと——同じ症状で、誰かが癒されたのを私は知っています。

私はまた横に引っ張られるのを感じました。

この人が通り過ぎるのを待つて……。

ほら、来ました。はい、女性です。

いや、あそこに座っている女性です——

帽子にさくらんぼの飾りが付いている方。

その方は背中が悪かった。今、癒されました。

後ろに座っている姉妹、

あなたは背骨に何か問題がありましたね？

背骨の中の——脊椎の問題です。そうでしょう？

立ち上がってください。

イエス・キリストがあなたを癒されます、姉妹。

神があなたを祝福されますように。

もう家へ帰って大丈夫です。健やかになります。

よろしい、姉妹。

あなたはここに立っている間に、心臓の患いが去りました。

だからこそ、私たちは互いに対して、

同じ思い、同じ心を持つのです。

14 さて今夜、私はほんの少しの間、

「期待(Expectation)」という題でお話したいと思います。

シメオンという人がいました。

彼は年老いた人でした。

神学者たちによれば、彼は八十代だったとも言われています。

しかし彼は、本当に神を待ち望む心を持った人でした。

時に教会は、ほんのわずかな人数しか残っていないような状態にまで、

追い込まれてしまうことがあります。

けれども、神はいつの時代にも、

**神を信じる残りの民(レムナント)**を、必ずどこかに持っておられました。

皆さん、それをご存じですか。

大洪水以前の世界を見てください。

救われたのはほんのわずかでした。

ノアと、その息子たち、嫁たち、そして妻——

それだけが箱舟に入りました。

それで全部です。そうでしょう。

イエスはこう言われました。

「ノアの時代のように、人の子が来る時もそうなる」。

また、

「門は狭く、道は細く、それを見いだす者は少ない」

とも言われました。

ああ、クリスチャンの皆さん、

どうか、その少数の中の一人になってください。

あなたには招きが与えられています。

ただ、前へ進み出ればよいのです。

「ノアの時代のように」。

道徳の状態を見てください。

「食べ、飲み、楽しみ、嫁ぎ、娶り、

ノアが箱舟に入るその日まで、何も分からなかった」。

どうか、入る者の一人になってください。

私のためにも祈ってください。

私も、あなたがたと共に入りたいのです。

本当に、心からそう願っています。

その日、あなたがたと共に入り、

同じ場所に立たせていただくこと——

それが、私の心からの願いなのです。

15 ここにいる皆さん一人ひとりを、

できることなら外へ連れ出して、

どこかに座って、しばらく話をしたい——

ホテルの部屋にお連れして、ゆっくり語り合えたらどんなにいいだろう、

何度もそう思いました。

神は私の心をご存じです。

私は、それが彼女の上を二度通るのを見ました。

その方に伝えてください。

「必ず信仰を持って、疑わないで、心を尽くして信じなさい」と。

私は信じています。

その姉妹は、話すことと、聞くことを受け取るでしょう。

皆さん、敬虔でいてください。

今、何が起きているのか、私ははっきり言い切れません。

しかし、何が問題かは見えます。

彼女は長い間、その状態だった。

たぶん、生まれつきだと思います。

私は、彼女の上に幻が臨んで来るのを見ます。

けれども、まだ——

頭のあたりに、暗さが残っているように見えます。

皆さん、敬虔に。

よろしい。

69 さあ、あなた(兄弟)、来てください。

……さて、次は男性ですね。

こんにちは、兄弟。

あなたの背中の中の痛みは癒されました。

だから壇上から降りて、背中が癒されたことを神に感謝しなさい。

もう、あなたにはそれがありません。

神があなたを祝福されますように、兄弟。

あなたは癒されたいですか。  
では言いなさい。  
「イエス様、私は今、あなたの贖い(贖罪)を受け入れます。」  
神があなたを祝福されますように。  
行きなさい。主イエスの御名によって癒されなさい。  
さあ、姉妹、来てください。  
もしあなたがこのように来て、  
神が私に語って「あなたの問題」を示してくださったなら、  
あなたはそれを受け入れますか。  
……心臓の患いです。  
行きなさい。主イエスの御名によって、癒されなさい。  
さあ、言いましょう。  
「主をほめたたえよ。」  
その調子です。  
信じ続けなさい。  
ただ信仰を持って、信じ続けなさい。  
68 あそこで、口のきけない姉妹と話している人——  
そのまま、信じさせてあげなさい。  
あそこに、今、本当に強く信じている人がいます。  
私はもう二、三度、それを見ました。  
あそこの婦人を、ちょっと見てください。  
緑の服を着ている方です。

私は小さい頃、いわば家族の中では  
「厄介者」、いわゆる“黒い羊”のような存在でした。  
私は酒を飲みませんでした。  
私の家族は皆アイルランド系で……[判別不明箇所]  
彼らは酒を飲み、煙草を吸い、賭け事をしました。  
私はというと、銃を持って狩りに出かけるだけでした。  
誰も、私を理解してくれませんでした。  
そして私がミッショナリー・バプテスト教会で按手を受けた時、  
人々はこう言いました。  
「そのうち、あいつはホーリーローラー(熱狂的信仰者)になるだろう」。  
彼らは、やはり私を理解しませんでした。  
私は……どこにも居場所を見つけることができませんでした。  
誰も、私を必要としてくれなかったのです。  
しかし、ついにある日、  
神は私を、私を愛してくれる人たちの中に置いてくださいました。  
そして今、私は皆さんの一人であることを、  
本当に幸せに思っています。  
私は、ここに集っている人たちが  
「選び抜かれた最良の人たち」だと信じています。  
他の誰かを軽んじるつもりは、まったくありません。  
ただ……ここが、私にとって  
手袋がぴったり合うような場所なのです。

私はこれまで、  
 本当に自分が合う場所を見つけることができませんでした。  
 いつも誤解されてきました。  
 それでも私は、  
 「きっと、どこかに同じような人がいるはずだ」と思い続けていました。  
 私は友だちが欲しかったのです。

本当に——

友だちを得るためなら、どんなことでもしたいと思うほどでした。

16 少し前のことですが、今でもはっきり覚えています。

父は酒を飲み……いろいろなことで、  
 私たちの家は町では、あまり良い評判を持っていませんでした。  
 私はよく町の中心部へ出て行きました。

その頃の私は、ぼろをまとった、少し大きくなっただけの少年で、  
 髪はだらりと垂れ、服といっても、ほとんど着ていないような状態でした。  
 冬の間ずっと、古いコートを一着だけ着て学校へ通っていたことを覚えています。

中にはシャツも着ていませんでした。

こうして、前をしっかりと留めたまま、脱ぐことができなかったのです。

春になったある日、先生が私に言いました。

「そのコート、暑くないの？」

私は答えました。

「いいえ、先生。」

脱げなかったのです。

主イエスの御名によって、家へ帰って健やかになりなさい。

アーメン。

皆さん、敬虔でいてください。

ずっと敬虔さを保てるなら、建物中どこでもそうしてください。

今、動き回らないでください。

祈りの中にいてください。

友よ、もしあなたがたが、

それがどれほど私を乱すか分かっていたなら……。

私が言っていることが分かると思う人、どれくらいいますか。

(分かりますね。)

それは……(不明瞭)……

とにかく、これは聖霊なのです。

そして聖霊は、とても繊細で、

本当に、信じられないほど繊細なのです。

さあ、皆さん、できるだけ敬虔に。

よろしい。次へ行きましょう。

67 さあ、姉妹、来てください。こんにちは。

あなたは私を、神のしもべとして信じますか。

あなたには、二つか三つ、問題がありますね。

一つは、あなたが特に気にしている——目です。

それから、少し胃の不調もあります。

それは神経から来ていて、乱視もあって、あなたを弱らせています。

今、この列に並んでいる人たちのうち、  
心を尽くして信じる人はどれくらいいますか。  
(はい。)  
では、外にいる皆さんも、ただ信じ続けていてください。  
よろしい。次の姉妹をお連れください。

66 こんにちは、姉妹。

心を尽くして信じますか。  
神がここにおられて、あなたを癒してくださると信じますか。  
今夜、聖霊が御業を確証して、成し遂げられると信じますか。  
あなたが今、不思議に思っているのはただ一つです——  
「自分について何と言われるのだろうか」ということ。  
私はあなたの心を読んでいるわけではありません。  
でも、あなたの心臓の患いは去りました。  
そして、背中への痛みも去りました。  
だから、壇上を降りて、喜び、こう言いなさい。  
「主よ、ありがとうございます。私は癒されました。」  
さあ、言いましょう。  
「主をほめたたえよ。」  
よろしい。次の姉妹、来てください。  
あなたは、私を神の預言者として信じますか。  
心を尽くして信じますか。信じなさい。  
あなたは糖尿病ですね。そうでしょうか？

中にシャツを着ていなかったからです。  
そのことは、今でも決して忘れられません。  
人々が私を見て、「貧しい白人のくず」のように扱っていたことも。  
私は町へ出て、誰かに話しかけました。  
他に話す人がいなければ、相手は私と話してくれました。  
でも、誰か別の人が来ると、  
その人たちは私から目をそらし、  
何も言わずに立ち去ってしまうのです。  
私は心の中で思いました。  
「自分が何をしたというんだらう。  
何も悪いことなんてしていない。  
誰一人、傷つけたこともないのに。」  
けれども、人々は、  
私をその場に一人残したまま、  
背を向けて歩いて行ってしまったのです。

17 少し前のことですが、ある日、私は妻と一緒にポーチに座って話していました。

私はこう言いました。  
「考えてみてごらん、ハニー。  
ほんの数年前までは、誰一人、私と話してくれる人さえいなかったのに、  
今では、少し休むために、森の中へ逃げ込まなければならないほどなんだ。」  
一体、何が変わったのでしょうか。

私の性格でしょうか？

そんなものは、私にはありません。

学歴でしょうか？

私は小学校程度——七年生までしか学んでいません。

では、何だったのでしょうか。

イエス・キリストの血が、低く身をかかめ、

この私を拾い上げてくださったのです。

それだけなのです。

私は心の底から、

尽きることのない愛をもって、主を愛しています。

すべては、主の功績であり、主の愛によるものです。

そして私は、私を愛してくれる皆さんを見えています。

私が皆さんに対して、どれほどの思いを抱いているか——

それは、言葉では言い尽くせません。

友よ、皆さんと約束をしましょう。

今夜は、もしかしたらその約束を果たせないかもしれません。

しかし、すべてが終わったあの栄光の日に、

私たちは天に集うのです。

もし、皆さんが私より先にそこへ着いたなら——

ある朝、あなたが自分の宮殿から外へ出て、

朝日が地平線の向こうから昇ってくるのを見た時、

丘の向こうのどこかにある、小さな小屋の方から、

そして、それを壊してしまうのです。

65 今、バクスター兄弟が、あそこにスクリーンを引いてくれました。

これで、私にはずっとやりやすくなるでしょう。確かに。

よろしい。では、姉妹をお連れください。はい。

こんにちは、姉妹。

今、心を尽くして信じますか。

主イエス・キリストがここにおられて、

あなたを祝福し——あなたを癒してくださると、信じますか。

……信じますね。

よろしい。

さて、あなたは貧血ですね。そうでしょうか？

それに神経の不調もありますね。

それから、心臓が悪いように感じて、息が詰まることがよくある。

でも、実際は心臓そのものではなく、神経から来ているのです。

けれど、あなたは良くなります。信じますか。

主イエス・キリストの御名によって、

喜びながら壇上を降りなさい。

「主よ、私の癒しを感謝します」と言いなさい。

さあ、みんなで言いましょ。

「主をほめたたえよ。」

さあ、進んでください。

信仰を持ちなさい。疑ってははいけません。

私は見ました。  
 このように、あなたの上に何か横たえられていて——  
 麻酔をかける時、あなたを横向きにした。  
 そうでしょう。  
 それは真実ですか。  
 もし真実なら、この腕を挙げてください。  
 ……はい。  
 さあ、今、心を尽くして信じますか。  
 よろしい。  
 では、壇上を降りて、喜びながら行きなさい。  
 癒しを受け取ったと告白しなさい。  
 そして、もう二度とそれについて別のことを言うてはいけません。  
 ただ、「私は癒された」と言い続けなさい。  
 さあ、皆で言いましょ。  
 「主をほめたたえよ。」  
 祈りの列を、次から次へと渡り歩く——  
 それが、どれほど呪われたことか。  
 いったん癒しを受け取ったなら、  
 もう二度と別の祈りの列へ行ってはいけません。  
 それで永遠に決着をつけなさい。分かりますか。  
 あなたがまた戻って来るたびに、  
 それはますます難しくなる、難しくなる、難しくなる。

誰かが裏庭に立って歌っているのが聞こえるでしょう。  
 「アメイジング・グレイス、なんと甘き響き…」♪  
 その時、あなたは言うでしょう。  
 「ブラナム兄弟は、ここへ来たんだ」と。  
 それが、私です。  
 私は、歌がうまくありません。  
 一度も、上手に歌えたことはありません。  
 でも、ずっと歌いたかったのです。  
 「アメイジング・グレイス、なんと甘き響き、  
 この取るに足らない者を救ってくださった」♪  
 私は、そこでそれを歌っているでしょう。  
 18 私たちは、あのヤコブの井戸のそばと一緒に腰を下ろすでしょう。  
 もう急ぐ必要はありません。  
 病人のための祈禱会もありません。  
 そこには、病人はいないのです。  
 その時には、みんな完全に癒されています。  
 私たちは、何千年もの間、互いに語り合い、  
 黄金の通りを行き来するでしょう。  
 なんと素晴らしいことでしょうか。  
 それは、作り話でも、空想の夢でもありません。  
 それは、福音の真理です。  
 私たちは、必ず見るのです。

昔、ケンタッキーでよく歌っていた、  
あの古いバプテストの賛美歌があります。  
私たちはこう歌いました。  
わたしは知る、そう、わたしは彼を知る、  
贖われて、御側に立つその時に。  
わたしは知る、わたしは彼を知る、  
その御手に残る、釘の跡によって。  
私は、主を知るのです。  
私たちがどのような姿になるのかは、まだ明らかにされていません。  
しかし、私たちは主と同じようなからだを与えられます。  
なぜなら、私たちは、主をありのままに見るからです。  
私にとっては、  
主がどのようなお姿であろうとも、  
それが主ご自身であるなら、  
そこがどこであっても、それは天国です。  
ただ、主を見ることができ、  
主と共にいられるなら——  
それで十分なのです。  
そして私は、皆さんも同じ思いだと信じています。  
今夜、神は私に、  
皆さんと共にいるという特権を与えてくださいました。  
神を待ち望む残りの民——レムナント。

彼女が落ち着きを取り戻せますように。  
彼女が今夜、この幕屋を出て、  
喜びながら家へ帰り、幸せに、癒され、  
神をほめたたえながら歩めますように。  
そして、もう二度と悩まされませんように。  
私は、あなたの御子、イエス・キリストの御名によって、  
この女性を祝福します。  
アーメン。

- 64 神があなたを祝福されますように、姉妹。  
心を尽くして信じますか。  
神が備えてくださり、成し遂げてくださると、  
心と力を尽くして信じて、そうするつもりですか。  
あなたは、自分が癒されたと信じますか。  
信じますか。……はい。  
では、あなたの信仰をもう少し確かなものにするために、  
一つお伝えしましょう。  
私は見ます——  
手術室のそばに、外科医が立っている。  
あなたは手術を受けましたね。  
そうでしょう？  
そして、それは……ここですね、腎臓の手術だった。  
そうではありませんか。

そうでしょう？

それから 肝臓 も悪い。肝臓があなたを悩ませています。

その通りです。

あなたは 非常に神経が高ぶっています。

そうですね？

そして、あなたは……。

言ってみましょう、あなたは以前にも祈ってもらったことがありますね。

私は見ます——あなたが、何か大きな集会の中で祈ってもらっている。

とても大きな集会です。

私は黒い……(見えます)——そこに オズボーン兄弟 がいます。

そうですか？

もしそうなら、手を挙げてください。

……はい、その通り。

さあ、ちよつとこちらへ。

いいですか——今、あなたは、心を尽くして信じますか。

今、信じるのです。分かりますね？

全能の神、いのちの創造者、あらゆる賜物の与え主よ、

この女性の上に祝福を注ぎ、彼女を癒してください。

ナザレのイエスよ、この女性を癒してください。

父よ、イエスの御名によってお願い致します。

この恐ろしいものが、彼女から去りますように。

特に、この神経の高ぶりが去って、

それは、

今日の御言葉の時代と同じように、

神を待ち続ける人々なのです。

19 シメオンには、聖霊からの約束がありました。

それは、主のキリストを見るまでは、決して死ぬことがないという約束でした。

ですから彼は、人々の間を歩き回り、こう語っていたのです。

「私は、主のキリストを見るまでは死なない」と。

皆さん、その人の気持ちを想像できるでしょうか。

彼は年老いた賢者でした。

白いひげ、白い髪を長く垂らしながら、

人々の中を歩き回って言うのです。

「私はね、主のキリストを見るまでは、死なないんだよ。」

すると人々は言ったでしょう。

「どうやら、あのお年寄り、少しおかしくなったんじゃないか。」

けれども、彼は聖霊の約束を持っていました。

彼は信じていたのです。

自分が死を見る前に、必ずキリストを見るのだと。

なぜなら、それは聖霊が語られたことだったからです。

彼の心の中には、その切なる願いがありました。

それは、ただの願望ではありませんでした。

彼には、約束があったのです。

20 もしあなたが信じるなら——

あなたが信じていること、その通りになるのです。  
今夜の集會に、  
ただ批判する材料を探すためだけに来たのなら、  
悪魔は必ず、あなたにその材料を見せるでしょう。  
そして、あなたはそれを見ることになります。  
しかし、  
神について何かを見だし、  
祝福を受けて帰りたいと思って来たなら、  
神は必ず、それをあなたに示して下さいます。  
あなたが何を求めているか、  
あなたがどのような心で来ているか——  
それがすべてです。  
聖書にこうあります。  
「人は心に思うとおりの者となる。」  
あなたが帰って行って、こう言うかもしれません。  
「いや、私は祈りの列に呼ばれるとは思っていなかった。」  
あるいは、  
「聖霊が語って、私をここに呼び出すなんて、期待していなかった。」  
もし、期待していないなら、  
それを受け取ることはできません。  
しかし——  
信じるなら(分かりますか?)

主の臨在の中で、  
できる限り敬虔でいてください。  
さあ、少しだけ話しましょう。  
あなたは今、緊張していますね。私はそれが分かります。  
あなたが手をもじもじさせているからです。  
それは誰でも見れば分かることです。  
あなたが震えているのを見て、緊張しているのが分かります。  
そして今は、いつもより少し強い緊張です。  
なぜなら、臨在の中にいるからです。  
リッチー兄弟、どうか祈ってください。  
あそこ、後ろの方から来ているものが、  
ここで私に干渉しているのが分かりますか。  
私はちよつとだけ、こちらを向きます。  
分かりますか。  
私は、あなたがたが信じていないと言いたいのではありません。  
けれども、あなたがたは人間であつて、  
そして霊の影響を受けています。  
それがこちらへ向かつて来ると、  
波のようなものがこちらへ押し寄せて、  
幻がうまく形にならないのです。  
分かりますか。

63 はい……あなたは 心臓の病を抱えていますね。

ここに、私のそばに一人の女性が立っています。

もし私が真実を語っているなら、

神が、私の言葉が真実であることを証明されます。

もし私が真実を語っていないなら、

神は私と何の関わりも持たれません。

人は誰でも、何でも言えます。

けれど、もし神がそれについて語り、

「それは真実だ」と言われるなら——

その時、あなたが信じるのは真実です。

あなたが信じるのは、神なのです。

61 さて、もし私が真実を語っているのなら——そして神が私を助けてくださるなら——私はこの姉妹を「見る」ことができるはずですが。ここで私が言う「見る」というのは、

今あなたがたが普通に見ているように見る、という意味ではありません。

それはちょうど、エリシャの時のようなものです。ヨラム王と、アハブの子(王)——それにヨシャパテが、エリシャのところへ下って来て、「戦いに上るべきか、どうか」と尋ねた時のことを、あなたは覚えていますね。その時、エリシャは何と言いましたか。

「もしヨシャパテの顔を立てるといことがなかったなら、私はお前を見ようともしない。お前に目もくれない。」そうでしょう？預言者は言ったのです。

「だが、彼を尊んでいるから、私はお前を見る。」

62 さあ、姉妹、こちらを見てください。

そして、はっきりと知っていてください。

今あなたが感じているその感覚——

それは全能の神です。あなたはそう信じますか。

そこに“期待”が生まれるのです。

私の母が、ある時、私を叔母に合わせるために送り出したことがあります。

私はその叔母に、会ったことがありませんでした。

母は、叔母がどんな人かを詳しく話してくれました。

「額が高くてね。」

「黒い髪をしているよ。」

私の母は混血で、インディアンを引いていました。

そしてこう言いました。

「額が高くて、髪は細く、

小柄で、痩せた女性だよ。」

母は、いくつもの特徴を教えてくださいました。

「そういう特徴で、すぐ分かるはずだよ」と。

私は人々の中を見回しながら、

頭の中にその姿を思い描いていました。

そして、彼女を見た瞬間、私は言いました。

「あなたは、僕の叔母さんですね。」

彼女は言いました。

「あなたは、誰？」

私は言いました。

「エラ・ブラナムをご存じですか？」

彼女は答えました。

「ええ。」

「それが、僕の母です。」

すると彼女は言いました。

「私の妹だわ。」

——そうして、私たちは出会ったのです。

分かりますか？

21 さて、今夜、私たちはある程度の理解を持つべきです。

聖霊が働くとき、それがどのように現れるのか——

その姿についてです。

イエスは、生ける神の教会がどのようなものになるかを、

はっきりと私たちに語ってくださいました。

主はこう言われました。

「わたしの名によって、彼らは悪霊を追い出し、

新しい舌で語り、

蛇を取っても、また何か毒になるものを飲んでも害を受けず、

病人に手を置けば、彼らは癒される。

わたしのすることを、あなたがたもするようになる。」

また、心の思いを知り、言い表し、見分ける——

そのような働きも語られました。

そうですね。

さて、もしあなたが今夜、神を求めてここに来ているなら、

それは、あなたが探している何かが、すでにここにある

ということを意味しています。

いいでしょう。じゃあ、言ってあげましょう。

ユダの手紙です。最初のところ。

こう書いてあります——

「ある者たちが、ひそかに忍び込んで来た。

彼らは昔から、この裁きに定められていた者たちで、

神の恵みを、みだらなことの口実に変えてしまう……。」

そうでしょうか？

昔から、この裁きに定められていた者たち。

エジプトのパロのように。

それから、滅びの子として生まれた

イスカリオテのユダのように。

だから、もしあなたの心の中に、

神へ向かう火花がほんの少しでもあるなら、

あなたは神に感謝して、

力の限り主に仕えるべきです。(そのとおり。)

神があなたに、機会を与えてくださっているんです。

さて、私は今ここに立って、

天地の創造主、エホバなる神を宣言します。

そして私は言います。

この終わりの時代に、

神の教会に信仰をもたらすため、

私は神の代表として立っているのだ、と。

わたしがあなたを遣わしたことを信じるだろう。」

モーセはそれを一度行いました。

そして、それで決着がついたのです。

そうでしょう？

さて、ここに一人の女性が立っています。

私の知る限り、私はこの女性に会ったことがありません。

人生で一度も見たことがない。

彼女も私のことを、たぶん新聞で見たとか、

集会で遠くから見たとか、その程度でしょう。

——私たちは互いに初対面です。

それで、皆さんに私が証しします。

私が生まれた時、私は山の中の小さな少年でしたが、

あの光が来て、私の上にとどまったのです。

そしてそれは、私の一生の間、私に伴ってきました。

それは、私の義のためでも、

私の何かのためでもありません。

それは神の予定、神の前もっての定めです。

エペソ人への手紙1章には、こうあります。

「これらのことは、世界の基が据えられる前から、

あらかじめ定められていた。」

60 今、あなたがたの中に、

「その聖書の箇所はどこだ？」って思っている人がいるのを感じます。

詩篇の中で、ダビデはこう言いました。

「深淵が深淵を呼び求める。」

つまり、どういうことかということ——

内側にある深い求めは、外側にある何かによって呼び起こされる  
ということです。

別の言い方をすれば、

ここに願いが生まれる前に、

その願いを生み出す何かが、必ず存在しているということです。

そして、その願いを生み出すものがあるなら、

その願いを創造した“創造主”がいるということになります。

分かりますか、私の言っていること。

22 ここで考えてみてください。

魚の背中にひれが付く前に、

まず、その魚が泳ぐための水がなければなりませんでした。

この湾にも、たくさんの魚がいますね。

見てください。

もし水が先に存在していなかったなら、

魚の背中に、ひれが付く理由などなかったはずですよ。

神は、水の中を泳ぐために、

その魚に、ひれを与えられたのです。

ですから、ひれができる前に、水が存在していなければならなかったのです。

同じことです。

地上に木が生える前には、  
 まず、その木が根を張り、成長するための地が必要でした。  
 もし地が先に存在していなかったなら、  
 木が生えることなど、あり得なかったでしょう。  
 それと同じように——  
 人の心の中に、神をもっと求める願いがあるなら、  
 その願いに応答する“さらに多くの神”が、  
 必ずどこかに存在していなければならないのです。  
 それが、  
 「深淵が深淵を呼び求める」  
 ということなのです。  
 分かりますか、私の言っていること。

23 さて、「深淵が深淵を呼ぶ」ということですが……。  
 ここにおられる方で、神の癒し(ディヴァイン・ヒーリング)を信じている方は、  
 手を挙げてください。  
 ……ええ、それは素晴らしい。  
 よろしいですね。  
 では、皆さんの心の中に、  
 「神のうちには癒しがある」という確信がある、  
 それは間違いありませんね。  
 さて、その確信があなたの心の中に生まれるためには、  
 それをそこに置いた創造主が、必ず存在しなければならないのです。

誰にもできない。  
 やろうとしても無駄です。  
 あなたは神を解き明かすことはできません。  
 神は、決して解き明かせない。  
 あなたは信仰によって、神を信じなければならないのです。

59 こんにちは、姉妹。  
 ええ、私はあなたに、人生で会ったことがあるかどうか……  
 おそらく一度もお会いしたことがないと思います。  
 私たちは初対面ですね。  
 さて、会衆の皆さん、聞いてください。  
 神はモーセにこう言われました。  
 「わたしはあなたをエジプトへ遣わし、  
 イスラエルの子らを救い出させる。」  
 するとモーセは言いました。  
 「私は口下手です。」  
 しかし主は言われました。  
 「だが、わたしはあなたに、  
 人々の前で行う“しるし”を与える。」  
 そして、もしそれを人々の前で行うなら——  
 (彼の手を変えて、らい病のようにし、また癒したこと、  
 杖を蛇に変えたこと)  
 「そうすれば、人々は、

58 私は信じています。  
全能の神が、今夜、素晴らしいことをなさる。  
ああ、どうかお願いします、皆さん、お願いします。  
神が、真実であることを証ししておられるのです。  
分かります。  
これはあまりにも深く、測り知れないように感じるでしょう。  
でも私は、皆さんの心を読んでいるわけではありません。  
ただ、あそこにいる人たちの中に、  
一つの“まとまり”があるのを感じるのです。  
——ただ不思議に思っている、感嘆している、驚いている。  
そういう反応です。  
信じていないのではありません。  
ただ、あまりにも驚いていて、  
「これは一体どういうことだろう」と思っている。  
そうでしょう。  
それが本当なら、会衆に分かるように、手を挙げてください。  
この会衆の中にいる方々、どうですか。  
私はそれを感じています。(そのとおり。)  
ただ驚き、ただ感心し、ただ感じている——そういう状態です。  
でも、不思議がってはいけません。  
ただ受け取りなさい。  
神を“理解し尽くす”ことはできません。

分かりますか。  
少し前のことですが、  
私は新聞で、こんな記事を読みました。  
ある小さな赤ん坊が、  
自転車のゴムのペダルをかじったり、  
鉛筆のゴムの部分を食べたりしていた、というのです。  
医師がその子を診察し、検査をしました。  
すると、医師はこう言いました。  
「分かりました。この赤ん坊の体には、ある成分が欠けています。」  
その子の体を調べた結果、  
——失礼、カルシウムではありませんでした。  
**硫黄(サルファー)**です。  
硫黄は、人間の体に必要な成分です。  
医師は言いました。  
「この赤ん坊の体には硫黄が不足している。  
体の中には、硫黄を必要とする器官があるのです。」  
つまり、その子の内側には、  
硫黄を求めて叫んでいる“何か”があったということです。  
もし、硫黄を求める声があるなら、  
どこかに必ず硫黄が存在していなければなりません。  
そうでなければ、  
その体が、硫黄を欲するように造られているはずがないのです。

分かりますね。

24 もし人の心の中に、神の癒しを切に求める渇きがあるなら——  
 ああ、ここが大切なところですよ——  
 そこには、必ず神の癒しがあります。  
 どこかに、開かれた泉があるのです。  
 そうでなければなりません。  
 もし、あなたがそれを切に求めているなら——  
 かつては、ただ生ぬるい経験しか持っていなかったとしても、  
 あなたの心が、もっと神を求め始めた時、  
 そこには必ず、どこかに開かれた泉があったのです。  
 そうでしょう？  
 そして、神がそれを送られたのです。  
 同じことです。  
 もし、あなたが神の癒しを切に求めているなら、  
 その渇きを、あなたの心の中に置かれた創造主が、必ずおられるのです。  
 それは、呼び声なのです。  
 深淵が、深淵を呼び求めているのです。  
 どこかに、泉があるのです。  
 そして、シメオンにも、聖霊からの約束がありました。  
 それは、主のキリストを見るまでは、決して死を見ないという約束でした。  
 彼の心の中には、その呼び声があったのです。  
 さあ、少し場面を思い描いてみましょう。

どうか今後も、彼女から離れたままでありますように。  
 イエス・キリストの御名によって。  
 彼女が行って、癒されますように。  
 アーメン。  
 神があなたを祝福されますように、姉妹。  
 喜びつつ、幸せに、そして健やかに帰りなさい。  
 さあ皆さん、言いましょう。  
 「主をほめたたえよ。」

57 「わがたましいよ、主をほめたたえよ。  
 わがうちなるすべてのものよ、  
 主の聖なる御名をほめたたえよ。  
 わがたましいよ、主をほめたたえよ。  
 主のすべての恵みを、忘れてはならない。  
 主は、あなたのすべての病を癒し、  
 あなたのすべての咎を赦される。」  
 ——それが、主に仕えることの恵みです。  
 よろしい。次の姉妹をお連れください。  
 皆さん、敬虔でいてください。  
 神を信じなさい。  
 疑ってははいけません。  
 ただ信じなさい。  
 神に信仰を持ちなさい。

……そうです。

断食してから、その感じは前より良くなった。

そうでしょう?本当ですか。

それに、あなたは手術も受けましたね。

——そうです。

そしてあなたはずっと信じてきた。

「私があなたに手を置いて、神に願い求めるなら、

それが去って行く」と。

あの感じが来ると、

あなたは不思議な感覚になる。

引っ張られるようで、押し出されるようで、

前へ突き動かされるように感じる。

そうでしょう。

さあ、姉妹、こちらへ来なさい。

これが、あなたにとって確証になります。

イエス・キリスト——神の御子の御名によって、

私が祝福するこの女性を、祝福してください。

あなたは言われました。

「地上であなたが縛ることは天でも縛られ、

地上であなたが解くことは天でも解かれる。」

全能の神よ、

この悪しき霊は、断食の間に彼女から離れました。

ほんのひとつき、ドラマのように考えてみてください。

——ある月曜日の朝から、始めてみましょう。

25 当時、パレスチナには、およそ二百万人ほどのユダヤ人がいました。

おそらく毎晩、何百人もの赤ん坊が生まれていたことでしょう。

毎日、赤ん坊は生まれ続けていました。

そして、生まれてから八日目になると、

割礼と清めのために、赤ん坊は神殿へ連れて来られました。

さて、主イエスが生まれた時——

それはユダヤのベツレヘム、

しかも飼い葉桶の中での誕生でしたが、

その誕生を祝う人は、誰一人いませんでした。

そこで神は、天から御使いたちを遣わされました。

御使いたちは、王の誕生の時に歌うように、賛美の歌を歌いました。

野にいた羊飼いたちが、それを聞き、

その出来事を知らされました。

彼らは行って、そのことを人々に告げました。

また、三人の博士たち(マギ)は、

星に導かれてやって来ました。

その星は、あらゆる天体の上を通っていたにもかかわらず、

それを見ることができたのは、その博士たちだけでした。

星は、彼らをまっすぐにキリストのもとへと導いたのです。

しかし、その出来事について、

世の中ではほとんど知られていませんでした。

当時は、今のような新聞も、ラジオも、テレビもありません。

知らせは、ただ人から人へ、口から耳へと伝えられるだけでした。

26 さて、八日が過ぎました。

ここで、少し注目してみましょう。

そこにやって来るのは、若いマリアです。

彼女は最初から、世間的には“黒い評判”を背負っていました。

人々から見れば、

「ヨセフとの間に、結婚もせずに子どもを産んだ女」

——そう思われていたのです。

当時の国中の人々は、彼女をあざ笑ったことでしょう。

「あそこにいるのが、結婚もしていないのに赤ん坊を抱いている女だ」と。

しかし、彼女の心の中では、

その子が誰の子であるかを、彼女自身はよく知っていました。

私たちは、ちょうど今日の午後、そのことを話していたところでしたね。

さあ、彼女が神殿へとやって来ます。

少し、その光景を見てみましょう。

列ができています。

おそらく、二百人、あるいは三百人ほどの女性たちが並んでいたでしょう。

列の向こうの方には、

子羊を抱えた人たちが立っています。

それは、裕福な人たちのささげ物です。

もしどこかでお会いしていたとしても、私は思い出せないのです。

でも、姉妹、あなたは癒されるために来たのですね。

そうでしょう。

そして私はすぐに分かります。

あなたはクリスチャンの女性です。

あなたは人に施す心があり、

人のために良いことをしてあげたい——

そういう心を持っている方です。

それに、あなたは事業をしている女性ですね。

何か商いをしておられる。そうでしょう。

……そうです。

あなたは衣料の仕事をしている。そうですね？

それは本当ですか。

——はい、姉妹。

それから……そうだ、あなたは、

私に服を送ってくれたことがありますね。

私に服をくださった。そうでしょう？

……そうです、してくれましたね。

さて、あなたは——

頭痛のようなものに苦しんでいます。

そして、何とも言えない変な感じがある。

あなたはこの数日、断食していましたね。

彼女の信仰が確かなものとして確認されるまで、先へ進めました。  
人によっては、他の人より長く話さなければならない時があります。  
けれども、もちろん、それをすると  
光が弱まるように――  
群衆全体に及ぶ働きが小さくなることもあります。  
ですから、時には短く切り上げなければならない。  
さあ、今は敬虔でいてください。  
よろしい、姉妹。さあ、前へ進んでください。  
皆さん、敬虔でいてください。  
あなたは祝福されています、姉妹。  
恐れてはいけません。  
ただ信仰を持ちなさい。  
誰にも、あなたの心に別のものを入れさせてはいけません。  
あなたは大丈夫です。  
そのまま行きなさい。  
彼女が通り過ぎた時、  
私がそれを知ったのは、理由があります。  
私は、もう一度、彼女のために力が出て行くのを感じたのです。分かりますか。  
それで私は分かりました。  
神が、あの姉妹の信仰を受け入れてくださったのだ、と。  
56 さあ、姉妹、もう少し近くへ来ててください。  
私たちは初対面だと思います。私はあなたを覚えていません。

しかし、そのずっと向こうに、  
私は一人の若い処女の姿を見ます。  
年の頃は、十八歳ほどでしょうか。  
彼女は顔にヴェールをかけ、  
くるみ布に包まれた小さな赤ん坊を、  
そっと腕に抱いて立っています。  
27 「くるみ布」とは、何でしょうか。  
私が教えられてきたところによれば、  
それは牛のくびきに巻いていた布のことでした。  
牛が畑を耕す時、  
くびきが直接こすれて傷つかないように、  
その間に挟んでいた布です。  
彼らには、赤ん坊に着せるためのものが何もありませんでした。  
そこで、その布をほどき、  
それを赤ん坊に巻きつけたのです。  
そして今、その幼子が、  
母の腕に抱かれて、神殿に立っておられます。  
人々は距離を置いて立ち、こう思ったことでしょう。  
「あんな女のそばには、近づきたくない。」  
「あの赤ん坊を見てごらん。  
なんて哀れなんだ。  
着せる服さえ、何もないじゃないか。」

しかし――

その赤ん坊こそ、栄光の王子だったのです。

マリアの手には、

二羽の山ばとがありました。

それは、貧しい人のために定められた、

農民のささげ物でした。

誰一人として、彼女に注意を払う者はいません。

さて、少し視線を神殿の奥の方へ移してみましょう。

そこに、一人の年老いた男が座っています。

彼は巻物を読みながら、

頬を伝って涙を流しています。

そして、こう祈っているのです。

「主よ、あなたは私に約束してくださいました。

あなたのキリストを見るまでは、

私は死なないと。

私は信じています。

あなたは、必ずそれを成し遂げてくださると。

私は、もうずいぶん年老いました。

けれども、いつか必ず、

あなたはそれを私に見せてくださるでしょう。」

28 ちょうどその時、聖霊がシメオンの上に動かれ、

こう語られました。

……はい、来ました。

子どものことです。出産のこと。

あなたは今、妊娠していて、

流産するのではないかと恐れている。

そうですね？

心配しないでください。

行きなさい。イエス・キリストが……(守られます。)

さあ、みんなで言いましょう。

「神に栄光あれ。」

イエス・キリストに、

神に、賛美をささげましょう。

このようにして、神をあがめましょう。

55 今、主はここにおられます。

癒し、完全にし、あらゆることをなされるために。

私がさきほど、その姉妹のところで少し留まっていたのは、理由があります。

私は、なるべく一人の人に長く留まらないようにしています。

一つ見えたら、それで手放して次へ進むのです。

でも、あの姉妹は、

「何かを心配している」と私が言ったところで、少し引っかかったのです。

それで私は、その時気づきました。

彼女が何を心配しているのかが見えたのです。

だから私は、

人々に分かるように手を挙げてください。  
——あなたの信仰が動き始め、引き寄せているからです。  
はい、姉妹。  
私は今、あなたが私から離れて行くのを見ます。  
あなたは戻って行き——  
ベッドのそばで立ち止まります。  
あなたがベッドの縁につかまっているのが見えます。  
あなたは足が不自由……  
いや、関節炎か、何かの状態がありますね。  
そして次に私は見ます。  
あなたは道を渡ろうとして、  
とても慎重に、ゆっくりと道路を横断しています。  
その時の服も、今と同じ服です。  
——最近のことです。  
それから、あなたは今、  
心の中に気がかりを抱えています。  
悩んでいますね。落ち着かない。  
あなたのそばに、何かかまわりつくように見えます。  
あなたは……何かで動揺しています。  
そうでしょう？ 心配している。  
正直に言ってください。  
それは、あなたが心配していることです。

「立ち上がれ、シメオン。動き始めなさい。」  
シメオンは言ったでしょう。  
「主よ、どこへですか？」  
「ただ、動きなさい。」  
今夜も、もしかすると、  
主はあなたに同じことを語っておられるかもしれません。  
それは、あなたが癒される時なのです。  
「立ち上がれ。動き始めなさい。」  
「どこへ？」  
「分からなくてもいい。立ち上がりなさい。」  
——そうして、彼は立ち上がりました。  
シメオンは、聖霊に導かれて人々の中へ出て行き、  
あの列の方へと進んで行きました。  
聖霊の導きのままに、  
列を下って行き、  
まっすぐに、あの女性のところへ来たのです。  
恥の中に立ち、  
頭を垂れ、  
腕の中の小さな赤ん坊を見つめながら、  
涙がその幼子の顔に落ちていた、  
あの女性のところへ。  
その赤ん坊は、

くるみ布に包まれていました。  
その時、年老いた祭司は、  
一言も語らずに、  
彼女の腕からその赤ん坊をそっと受け取り、  
自分の腕に抱き上げました。  
そして、  
ひげを伝って涙を流しながら、  
天を仰いで言いました。  
「主よ、今こそ、  
あなたのしもべを、  
あなたのお言葉どおり、  
安らかに去らせてください。  
この目で、あなたの救いを見たからです。」  
——(テープ欠落)  
さて、神殿のずっと奥の方——  
およそ五十万人もの人々が行き交っていたその場所に、  
アンナという名の年老いた女預言者が座っていました。  
私たちは、彼女は目が見えなかったと教えられています。  
しかし彼女もまた、  
イスラエルの慰めを待ち望んでいたのです。  
その時、聖霊が彼女に語られました。  
すると彼女は立ち上がりました。

それを説明しようとしても、無理です。  
あなたには分からないし、  
分かるようにはならない。  
私が去ったあと、  
これはまた別の誰かの上に臨むでしょう。  
——さあ、それでは続けましょう。  
54 こんにちは、姉妹。  
あなたが患者さんですね。  
でも、私たちは初対面だと思います。  
私はあなたを見たことがないと思います。  
もし私たちが初対面なら——  
私はここに立つ一人の男で、あなたは一人の女性。  
そして、ここには数千人の人が、私たちを見ています。  
それだけではありません。  
ここには超自然のお方が立っておられます。  
私が話している神の御使いです。  
そして、私がここに立っているのと同じくらい確かに、  
あなたもそれを感じているはずですよ。  
あなたは、今までの人生で、  
こんなものを感じたことがない。  
そうですね？  
もしその通りなら、

あれが、その一例です。  
それで私は今、ふらつき、よろめいています。分かりますか。  
人間の部分が退き、超自然が入って来て、  
人の肉体を通して働く。  
——肉体そのものが働くのではなく、  
超自然が、肉体を通して働くのです。  
ちょうど、電球を通して光が出るのと同じです。  
光っているのは電球ではありません。  
そこを通っている光——  
その電流が働いているのです。分かりますか。  
スイッチを切れば、暗くなります。  
人間も、それと同じで……。  
イエスの衣の房に触れた女のことを覚えていますか。  
その時、主はひどく弱られましたね。  
覚えている方、手を挙げてください。  
そして預言者ダニエルを覚えていますか。  
彼は一つの幻を見たあと、  
「私は幾日も頭が悩んだ」と言いました。  
そうですね。  
今、私が言いたいことが分かりますか。  
私たちは、  
人々が何も知らない領域へと踏み込まなければならないのです。

目が見えないまま、  
神殿の中を進んでいきます。  
人々の間を縫うように、  
聖霊に導かれて進み、  
ついに、その幼子の前へと来ました。  
そして、  
両手を高く挙げ、  
神をほめたたえたのです。  
29 それは何でしょうか。  
あの人たちの上に働かれた同じ神です。  
今夜、あなたが神の癒しを信じているなら、  
どこかに開かれた泉があると信じているなら——  
シメオンの上におられた同じ聖霊、  
アンナの上におられた同じ聖霊が、  
今夜、あなたをこの神殿へと導いて来られたのです。  
そして、ここには、  
今夜、自由に注がれる癒しの泉があります。  
期待しなさい。  
神は、あなたに、  
御力によって癒されるという約束を与えてくださいました。  
そして、神は今夜、それを行うためにここにおられます。  
あなたは、それを信じますか。

私は、集会の中を歩き回りながら、  
 聖霊の導きがどのように働くのかを、  
 何度も目にしてきました。  
 今、ここに座っている一人の女性に、  
 私はお話ししたいと思います。  
 それは、インディアナ州フォート・ウェインでのことでした。  
 そこでは、B・E・レディガー兄弟や、  
 ポール・レーダー兄弟といった、  
 勇敢な神の人々による大きなリバイバルが行われていました。  
 ボスワース兄弟も、その集会に来ておられ、  
 語っておられました。  
 私は、インディアナ・ホテルに泊まっていたのですが、  
 私がそこにいることが知られると、  
 案内係——ベルボーイがやって来て、こう言いました。  
 「ブラナム兄弟、  
 とても下へは降りられません。  
 あまりにも多くの人が集まっているのです。」

30 そこで、彼らは私を外へ連れ出しました。  
 そこは、多発性硬化症の男性が癒された場所でした。  
 その後、  
 イギリスのジョージ国王から、  
 「多発性硬化症のために祈ってほしい」という要請が送られて来ました。

私はあなたの上に手を置きます。  
 主の御言葉にはこうあります——  
 「彼らは回復する。」  
 兄弟よ、あなたは癒しを受けます。  
 喜びとともに家へ帰りなさい。  
 幸せになりなさい。  
 そして、癒されなさい。  
 イエス・キリストの御名によって。  
 「主をほめたたえよ」と言ってください。  
 さあ、皆で言いましょ。

「神に栄光あれ。」

53 ああ、これは本当に素晴らしいことです。  
 けれど、しばしば——これが私をととても弱らせます。  
 昨夜も、皆さんが少し私に時間をくれました。  
 しかし私は分かっています、友よ。  
 私は、こういう状態で何年も長くは続けられません。  
 これは命を焼き尽くすのです。  
 本当に、命そのものが消耗してしまう。  
 皆さんの中には、  
 なぜ時々、私がこの壇上から担ぎ下ろされなければならないのか、  
 理解できない方もいるでしょう。  
 今起こった、あの人から悪霊が出て行った一件——

52 はい、兄弟。  
あなたは今、とても恐ろしいものに苦しんでおられます。  
それは——がんです。そうでしょう。  
がんは、舌の下にあります。  
口の中だと思えます。そうですね？  
あなたは、とても緊張しています。  
そして私は見ます——  
それは前立腺の不調が原因になっている。  
それがしばらく続いていて、あなたは落ち着かない状態でした。  
あなたはこれまで、思うように生活できなかつた。  
そして目も悪い。視力に問題があります。  
耳もよくありません。聴力が落ちています。  
最近、ひどくだるく感じ、  
疲れ切って、力が抜けてしまう。  
体力が消耗している。  
——そうでしょう。  
それは本当ですか。  
もし本当なら、会衆にも分かるように、  
その通りだったなら、手を挙げてください。  
——今言ったことが全部、その通りだったなら。  
(はい。)  
では今、あなたはイエスをあなたの癒し主として受け入れますか。

そして、神はその方を癒されたのです。  
その男性は、十年間、寝たきりでした。  
腰から下が麻痺しており、  
座ることさえできず、  
祈りの列に入ることもできない状態でした。  
しかし、ある夜——  
集会の最終の夜のことで。  
ここに座っておられるボスワース兄弟が、  
この出来事の証人ですが、  
ある実業家はその男性を抱き上げました。  
皆さん、『We The People』を読んだことがありますか。  
世界中を回っている、あの有名な書籍です。  
その中に、この出来事の記事が掲載されています。  
フォート・ウェインでの集会で、  
盲目の少女が癒された証しなどと共に、  
私の集会のことが取り上げられました。  
また、  
『ペンテコステル・エヴァンジェル』を読んでおられる方はいますか。  
そこにも、この出来事は掲載されました。  
あちこちで、報道されたのです。  
皆さんも、きっとその記事をご覧になったことでしょう。  
疑いようもありません。

今年、あの世界的に知られた『We The People』の中に、  
この出来事が記録されたのです。

31 それから、私たちが壇上へ向かおうとしていた時のことです。  
その男性を、何人かの実業家が抱き上げて来ました。  
彼は十年間、一度も歩いたことがなく、  
多発性硬化症で、ずっと寝たきりだった人でした。  
彼を何とか横たえようとしたのですが、  
人々がその上を行き交っていました。  
私たちは、いわゆるファスト・ライン——  
次々と祈っていく列を進めていたのです。  
その混乱の中で、  
彼は壇上から引き下ろされてしまいました。  
彼は、ほとんど息も絶え絶えの状態でした。  
そして彼は、再び車椅子に座らされました。  
その時、彼は顔を上げ、  
私の方を見上げて、こう言いました。  
「ああ、ブラナム兄弟。  
もし、あなたのズボンの裾にでも触れることができたなら、  
私は癒されていたでしょうに。」  
彼は、ズボンの裾に触れさえすれば癒されると信じていたのです。  
私は言いました。  
「神があなたを祝福されますように、兄弟。」

でも害はありません。  
すべては良いことのため、あなたを助けるためです。  
だから私は今夜ここにいるのです。  
もし私が、  
神が私を遣わして、  
これらの病んでいる人々を助けるために何かさせるのだ、  
と信じられなかったなら、  
私は決してここにいて、人を欺くようなことはしません。  
もし神が私を遣わして人々を助けるのだと分からないなら、  
私は明日の朝、アフリカへ行ったりしません。  
家族のところへ帰って、  
以前の仕事——保護区(コンザベーション)の仕事に戻って働くでしょう。  
しかし、私は欺く者にはなりません。  
けれども私は、神が私を遣わして人々を助けるのだと信じています。  
そして、それが私が今夜ここにいる理由です。  
なぜなら、  
もし神が私を通して何かをなさって、  
あなたの信仰が増し、  
神の御子をあなたの癒し主として受け入れることができるなら、  
あなたは癒されるからです。  
あなたも、それを信じますね。  
……信じますね。はい、そうですね。

後ろの方まで、  
ちゃんと聞こえていますか。  
一番後ろの方、どうでしょうか。  
聞こえている方は、  
手を挙げてください。  
……はい、それで大丈夫ですね。  
ありがとうございます。

- 51 どうも、こんにちは。あなたは男性ですね。  
私たちは初対面だと思います。私はあなたを知りません。  
今、私がこうして話しているのは、ただ——  
あなたの人間の霊に触れるためです。わかりますか。  
あなたは、私が神のしもべだと信じますか。  
信じますか。……そうですか。  
さて、あなたには何か問題があります。  
そして、もし私が神の御霊によって、あなたの問題を見分けられるなら、  
それは私に、それを知るための超自然的な手段がなければ不可能です。  
そうでしょう。  
そうでなければ、私は何も知りようがありません。  
……主を愛しておられますか。  
主は素晴らしいお方ですね。実に……。  
あなたは今、少し緊張していますね。(わかりますか。)  
ここに立っていることの張りつめた感じですよ。

- そして、もう一度彼を見た瞬間——  
私は、彼が歩いて去って行く幻を見ました。  
その時、私は分かりました。  
今、起こらなければならない。  
そう確信したのです。  
私は言いました。  
「兄弟、あなたは十年間、寝たきりでしたね。」  
彼は答えました。  
「そのとおりです。」  
私は言いました。  
「しかし、イエス・キリストが、あなたを完全にさめます。」  
すると彼は、  
その車椅子から、ひよいと立ち上がり、  
そのまま——  
歩いて行ってしまったのです。
- 32 そこに、もう一人、年老いた男性が横たわっていました。  
彼はこう言いました。  
「兄弟よ、もしあなたの服に触れることさえできたなら、私は癒されるでしょう。」  
彼は麻痺しており、関節炎を患っていました。  
私が彼のところを通り過ぎると、  
彼はその不自由な手を、私にそつと置いて言いました。  
「主よ、感謝します。感謝します。」

これが、私がしたかったことなのです。」  
分かりますか。  
それが、彼の“期待”だったのです。  
「あなたの信仰のとおりになるように。」  
それから、およそ六か月後のことです。  
フォート・ウェインから、一通の手紙が届きました。  
そこには、こう書かれていました。  
多発性硬化症だったあの男性は、  
今では車を運転して道を走っている。  
そして、  
麻痺していた——関節炎で長年苦しんでいたもう一人の男性は、  
畑でトラクターを運転し、耕している。  
その二人は、あの集会の間、ずっと並んで座り、  
互いに語り合っていた親友同士でした。  
それは、あの集会の最終の夜でした。  
ある日、  
かつて関節炎で長年寝たきりだった男性が、  
トラクターで畑を耕していると、  
道の向こうから、  
かつて多発性硬化症だった友人が車で走って来るのが見えました。  
すると、その男は車から飛び降り、  
畑を横切って走り出しました。

患者の方をお連れください。  
50 さあ、どうかお願いします、皆さん。  
今夜は最終の夜、しかも日曜の夜です。  
残された時間は、ほんのわずかです。  
もしかすると、ここに少し多くの方を前に集め過ぎたかもしれません。  
そのため、祈っている方々の妨げになることもあるでしょう。  
ですから、今座っておられる方は、そのまま席にいてください。  
そして、どうか敬虔でいてください。  
こちらを見て、祈ってください。  
建物のあちこちで——  
後ろの方も、  
横の方も、  
こちら側も、  
どこにおられても、  
今夜は特に、心から真剣になってください。  
そうすれば、  
神が語られ、  
あなたの信仰を確かなものとしてくださるかどうかが、  
確かめることができるでしょう。  
さて——  
この建物の管理の方の一人が、  
このマイクを直してくださると聞いています。

それはキリストでした。

その御使いは、

燃える柴の中で、モーセに出会われました。

それが、火の柱だったのです。

業を行ったのは、モーセではありませんでした。

彼を導いた、その火の柱が、業を行ったのです。

そして私は信じています。

キリストの上におられた、その同じ御霊が、

今日、ここにおられる。

主は、今、癒すことがおできにならないのではありません。

癒しは、すでに成し遂げられているのです。

すでに、なされているのです。

さて、皆さん、

互いにカードを確認してください。

耳の聞こえない方もおられるかもしれません。

私は、まず1番から20番までを呼びました。

その方々は……。

案内係の方々、

患者の方は、全員そろっていますか？

皆さん、来ていますね？

——それは結構です。

では、

同時に、もう一人もトラクターから飛び降り、

二人は互いに駆け寄り、

抱き合い、叫び、泣きながら——

畑の真ん中で、こう歌い始めたのです。

「アメイジング・グレイス、なんと甘き響き、

この取るに足らない者を救ってくださいました……」

——ええ、その畑の中でです。

33 ある朝のことを、今でもよく覚えています。

妻と私、そしてモーガン夫人——

彼女は、つい最近までがんで癒されたメイヨー・クリニックの看護師でした。

医師たちは、彼女をもう見放していました。

がんが全身に広がっており、

体重は四十キロにも満たないほどでした。

私が以前お話しした、

イギリス——いえ、南アフリカのフローレンス・ナイチンゲールと呼ばれた女性よりも、

はるかにひどい状態でした。

医師たちは言いました。

「もう、なす術はありません。」

しかし今、彼女は——

**体重は百五十五ポンド(約七十キロ)になり、**

完全な健康を取り戻しています。

その彼女も一緒に、  
私たちは通りへ出て行きました。  
地下室の通路を通り、外へ出て、  
そのまま通りを歩いていたのです。  
私はコートの前を閉め、  
腕の中には、小さなベッキーを抱いていました。  
彼女は、私の腕の中で静かにしていました。  
私たちは通りを歩いていました。  
すると突然、聖霊が語られたのです。  
「トドル・ハウスには行くな。」  
そこは、以前、  
カナダのイートン氏が癒された、  
あの小さなトドル・ハウスでした。  
主は続けて言われました。  
「朝食は、こちらの道を行きなさい。」  
34 私は、その道へと曲がりました。  
どこへ行くのかも分からないまま、ただ歩いて行きました。  
女性たちは、私の後について来ました。  
その時、私は主の声を聞いたのです。  
顔を上げると、目の前に  
「ミラーズ・カフェテリア」と書かれた場所がありました。  
主は言われました。

この世に生まれながらに与えられた、  
預言的な賜物だけです。  
それは、  
父なる神が示されるとおりに、  
識別し、知り、見分ける——  
そのような賜物です。  
そして私は、  
それが**荒野**を**通って約束の地**へと  
**イスラエルの子らを導いた**、  
**あの同じ「火の柱」**であると信じています。  
あれは、火の柱でしたね。  
そうでしょう。  
そして、聖霊——神の御使いが、  
ご自身の写真を撮られることを許された時、  
そこに写っていたものは、  
まさに火の柱でした。  
同じものです。  
まったく同じなのです。  
49 そして私は知っていますし、  
どんな聖書学者も知っていることですが、  
あの御使いは、契約の御使いでした。  
——そうですね？

どうかできるだけ敬虔な態度を保っててください。

今夜、私は一つ、皆さんにお願いしたいことがあります。

これまで私は皆さんに語ってきましたが、

どうか、このことを私のために守ってください。

どうか、動き回らないでください。

お願いします。

列が進んでいる間、

できる限り静かに、敬虔でいてください。

そうしないと、私は集中から外れてしまいます。

そして、悪魔が望んでいるのは、ただ一つだけなのです。

悪魔は、

たくさんの良いことを見ようとはしません。

たった一つの悪い点を探して、

そこを壊そうとするのです。

わかりますか。

ですから、静かに、敬虔でいてください。

そうすれば、神ご自身が語り、

私があなたがたに語ってきたことが真実であることを、

証ししてくださるでしょう。

さて、これをよく覚えておいてください。

私は、自分を「神の癒し手」だとは主張していません。

私が主張しているのは、

「ここに入りなさい。」

私は中に入り、

プルーンを少しと、コーヒーを一杯取り、席に着きました。

そして、ちょうど食事の祝福を祈り終えた、その時です。

誰かが叫びました。

「栄光あれ、神に！」

モーガン夫人が言いました。

「ほら、捕まっちゃいましたね。」

私は答えました。

「いや、ちょっと待ってください。」

すると、一人の年老いた母親が立ち上がり、こう言いました。

「ブラナム兄弟、

ここにいるのは、私の兄です。」

彼女は続けました。

「私は、集会から集会へと、

ずっと後を追いかけて来ました。

でも、どうしても祈りの列に入ることができなかったのです。」

「昨夜、私は一晩中祈りました。

そして……私たちは、牛を売りました。」

彼女たちはテキサスから来ていました。

「ここへ来る旅費を作るために、

私たちは牛を売ったのです。」

「でも、今夜が最後の集会でした。

祈りのカードも手に入りません。

カードは何枚も持っていましたが、

一度も呼ばれなかったのです。」

「もう、次の集会を迫りかけるために売れるものは、

何一つ残っていません。」

彼女は言いました。

「私は一晩中祈り続けました。

そして、明け方の四時ごろ、ついに眠ってしまったのです。」

「その時、夢を見ました。

『ミラーズ・カフェテリアへ行きなさい。

そして、九時きっかりに、そこにいるように』

と言われたのです。」

そして彼女は言いました。

「見てください。

今、ちょうど九時です。」

35 ああ、なんと主は素晴らしいお方でしょう。

神は、その場に立っていたその男性を、ただちに癒されました。

私たちは食事も取らずに、

そのまま立ち上がり、外へ向かって歩き出しました。

聖霊が導いておられたのです。

私がドアのところまで行った時のことです。

私は、一人の父親が、

てんかんの子どもを連れて来るのを見ます。

彼は言いました。

「あなたの弟子たちのところへ連れて行きましたが、

彼らには、どうすることもできませんでした。」

そして言いました。

「主よ、あなたは助けてくださいますか。」

——マルコによる福音書 9章23節——

イエスは言われました。

「信じるなら、できる。

信じる者には、すべてのことが可能である。」

——マルコによる福音書 9章24節——

彼は叫びました。

「主よ、信じます。

私の不信仰を、お助けください。」

その同じイエスが、今夜、

私たちすべてのただ中におられます。

さあ、皆で祈りに入りましょう。

今、ここにおられる方は、

皆、心を合わせて——

主にお会いすることを期待して。

48 さて、今、皆さんが一人ずつ並んでおられる間、

♪

今度は、こう変えて歌いましょう。

「今、私は信じます」——

今です、今。

今、信じている方は、どれくらいいますか。

……よろしい。

では、声を上げて、

天井が鳴るほど歌いましょう。

さあ、行きますよ。

♪

今、私は信じます、今、私は信じます、

すべては可能、今、私は信じます。

今、私は信じます、今、私は信じます、

すべては可能、今、私は信じます。

♪

さあ、今度は——

静かに、ハミングしましょう。

(ブラナム兄弟、ハミングを始める)

47 ある朝、山を下って来られた時、

低くなられたガリラヤ人がそこにおられました。

その時、父なる神はこう言われました。

「これは、わたしの愛する子。わたしは、これを喜ぶ。」

一人の小柄な女性——

とても身なりの良い、若い女性で、黒い服を着ていました——

彼女は、ほとんど通りに倒れ込むようになりながら、こう言いました。

「ああ……。」

彼女はシカゴから来た方でした。

そして今夜、この集会のどこかに座っておられます。

昨日も、ここにおられました。

神は、彼女に語られていたのです。

彼女の命が、まさに終わりに近づいていることをご存じのうえで、

こう言われました。

「行きなさい。

九時十分に、ミラーズ・カフェテリアの前に立ちなさい。」

その女性が、今夜ここにおられるかどうか分かりませんが……

彼女とご主人は、シカゴでスパゲッティ会社を経営しておられます。

もしここにおられたら、手を挙げるか、合図をしてください。

——連絡は受けていました。

ああ、あそこです。そこにおられます。

神を賛美しましょう。

あそこにおられます。

悪性のがんでした。末期でした。

メイヨー・クリニックも含め、

どこからも見放されていた状態でした。

それなのに、今夜、彼女はここにおられます。

二年が経っています。

「アメイジング・グレイス。」

見てください。

聖霊に導かれ、今は完全に健康なのです。

確か彼女は、

最近、南米から戻って来たばかりだったと思います。

少し前にも、この集会で証しをしてくださいました。

——さあ、これでよいでしょう。

36 その女性と別れたあと、私は通りを歩き始めました。

すると、聖霊がこう言われたのです。

「止まりなさい。」

モーガン夫人とメダ——私の妻ですが——は、

「行きましょう」と言いました。

私は言いました。

「通りを渡って、ドラッグストアに入って、

赤ちゃんに塗り絵の本を買ってあげてください。

地下を通過して進めば、上は人でいっぱいですから。」

そして私は言いました。

「聖霊は、まだ終わっておられません。」

私はその角に立ち止まり、少し戻りました。

私は銃や釣り道具が好きなので、

では……

ビリーはどこにいる？

ビリー、その手紙は何だい？

……そうか。

ビリーの話では、

残っていた祈りのカードは、すべて配り終えたそうです。

何百枚も……

——(テープ欠落)——

では、「ただ信じよ」を歌いましょう。

さあ、行きましょう。

♪

ただ信じよ、ただ信じよ、

すべては可能、ただ信じよ。

ただ信じよ、ただ信じよ、

すべては可能、ただ信じよ。

♪

今度は、こう歌いましょう。

♪

主よ、信じます、主よ、信じます、

すべては可能、主よ、信じます。

主よ、信じます(そのとおり)、主よ、信じます、

すべては可能、主よ、信じます。

病と死との間に立たれる仲保者です。

ああ、あなたは、なんと素晴らしいお方でしょう。

驚くべき恵み。

その恵みによって、私たちは救われ、

あなたの打ち傷によって癒され、

愛された御子にあつて、

すべてに打ち勝つ者とされました。

今夜、どうか

大いなる注ぎを与えてください。

あなたの御子イエスの御名によって、

これを願い、祈ります。

アーメン。

46 神に栄光あれ。

今、あの後ろで、誰かが癒されました。

アーメン。

ああ、本当に素晴らしいことです。

どうして黙っていられるのでしょうか。

さあ、では――

主を愛している方は、「アーメン」と言ってください。

今夜、自分は癒されると信じている方、

手を挙げてください。

……よろしい。

店先のそれらを眺めているふりをしていました。

誰にも気づかれないように、

そっと隅に身を寄せて祈りました。

「天の父よ、私に何をなさせたいのですか。」

すると主は言われました。

「角まで行き、通りを渡って、しばらくそこに立ちなさい。」

私は外へ出て、通りを渡り、そこに立ちました。

これは、よくあることです。

角に立ってしばらくすると、

人々が行ったり来たり、行ったり来たりしていました。

十分ほど経ったころ、

大柄なアイルランド系の警官が笛を吹き、

歩行者たちがまた横断し始めました。

その時、私は見ました。

小さな帽子(タム)をかぶり、

チェック柄のスーツを着て、

腕にハンドバッグをかけた一人の女性が、

通りを渡って来るのを。

彼女は、私のすぐそばを通り過ぎて行きました。

すると主は言われました。

「彼女に近づきなさい。」

私はそうしました。

彼女はそのまま行ってしまい、  
私は思いました。  
「不思議だな。なぜ、あの人のそばを通れと言われたのだろう。」  
私はそのまま少し立っていました。  
すると彼女が振り返って言いました。  
「ああ……ブラナム兄弟。」  
私は答えました。  
「はい。」  
彼女は言いました。  
「気を失いそうです。」  
私は言いました。  
「どうしましたか、姉妹。」  
彼女は言いました。  
「私はカナダから来ました。  
一年に百五十ドルしか、こちらでは使えないのです。  
もう、全部使い果たしました。」  
「今朝、コーヒー代の五セントしかなくて、  
昨夜は、ホテルのロビーで、  
椅子に座ったまま眠らせてもらいました。」  
「今朝も、五セントでコーヒーを飲み、  
ヒッチハイクでカナダへ帰ろうとしていました。  
ここから二、三ブロック下で、

主よ、どうかそれを成し遂げてください。  
神よ、私があなたに仕えようとして、  
持てるすべてを注ぎ出し、  
全身全霊で願い求めているこの祈りを、  
どうかお聞きください。  
主イエスよ、  
あなたのために何かをしようとするこの働きの中で、  
どうか私を助け、  
あなたのしもべとして用いてください。  
そして今夜、  
この建物にいる多くの、多くの、多くの人々が、  
痛み、苦しんでいるすべての者が、  
完全に癒されますように。  
主よ、その時、  
私たちはどれほど喜ぶことでしょう。  
そして、  
すべての賛美、すべての栄光を、  
あなたにお返しします。  
私たちは知っています。  
あなたは、癒すために、  
答えるために、今ここにおられることを。  
あなたは、愛に満ちた父なる神であり、

今夜も、  
エマオへの道の時と同じように、  
主は私たちと共におられます。  
よみがえられた主として、  
今、ここに立っておられます。  
神の御子が、  
今、私たちのただ中に立っておられます。  
そして、  
しるしと不思議によって、  
ご自身がここにおられることを証明しておられます。  
聖霊によって、  
神の言葉を、聖徒たちの心の中に送り込み、  
その言葉を、あの会衆の中へと送り出しておられるのです。

45 ああ神よ、  
あなたのしもべの祈りをお聞きください。  
この巡回集会の締めくくりとして、  
この美しく、素晴らしい国のために祈ります。  
神よ、アメリカをお救いください。  
今夜、神の御使いたちを遣わしてください。  
そして、聖霊が大いに注がれ、  
この建物にいる一人ひとりが、  
文字どおり癒されますように。

泣きながら、  
『来た道を引き返さなければならない』と言っていたのです。』  
彼女は続けました。  
「その時、霊に入ったのです。  
気がついたら、あなたがここに立っていました。  
どれだけ曲がったのかも、分かりません。」  
私は言いました。  
「どうしましたか、姉妹。」  
彼女は言いました。  
「私の腕は不自由です。  
小さい頃、犬に乗っていて転び、  
手を痛めたのです。」  
私は言いました。  
「手を伸ばしなさい。  
イエス・キリストが、あなたを癒されました。」  
その時、その大柄な警官が言いました。  
「あなたが誰だか知っていますよ、ブラナム兄弟。」  
それからどうなったと思いますか。  
通りの上で、祈りの列が始まったのです。  
およそ一時間も続きました。  
ついに、人が来て、私を連れて行かなければならないほどでした。  
多くのことが起こりました。

そして……

もう一つだけ、ほんの少しお話しさせてください。

——まだ、五分ありますね。

37 ほら、急いでダラスから来ていました。ボズワース兄弟はあそこのことを覚えていました。そして私は飛行機で戻ってきました。嵐が来て、私はメンフィスに送られました。そして彼らは私にこう言いました、航空会社は言いました、“朝に電話します。” ピーボディホテルへ行きました。彼らはそこで一晩中滞在しました。翌朝、彼らは早く私に電話して、“さあ、8時に準備をしてください。”と言いました

私は言いました、“わかりました。”そして、返送しなければならないメールがいくつかありました。そして私は外に出て祈りました。私は郵便物を箱に入れるために郵便局に駆け寄りました。聖霊がどのように導かれるのか、今よく聞いてください。私は郵便局に行き、通りを下っていきました。ペンテコステ派の人々が歌うあの小さな歌を歌いながら下っていきました。“彼らは今、神の力はまったく同じだと広く語っています。”聞いたことある？“私もその一人だと言って嬉しいです。”私は歌いながら降りていました、“私もその一人です、私もその一人です。私もその一人だと言えるのがとても嬉しいです。”私はそんなふう倒れていった。私が通りを渡り始めると、聖霊は言いました。“止まれ。”

38 主の天使が近づいてくるのを感じ、その大きな柱の中に戻って言いました、“天の父よ、あなたはしもべに何をさせたいのですか？”

彼は言いました、“向きを変えて戻ってください。”。続けてくれ。”

私は向きを変えて通りを歩いて戻りました。私は3、4マイルほど見るために延々と歩きました。8時が来る、9時が来る。ああ、私は自分がそうであることを知っていました。。飛行機はなくなりましたが、私はただ歩き続けました。その後、私は有色人種地区にいました。私はそこを見下ろしました。そこには小さな古い白塗りの家があり、ドアの周りにバラが咲いていました。私は門の向こうにぶら下がって見ましたが、そこには非常に典型的なジェマイマお婆さんがぶら下がっていました。彼女はどのように男性のシャツを頭にピンで留めていました。彼女はどのように門の上ぶら下がっていました、そしてああ、私は彼女が100ヤード離れたところにいるのを見ました。そして私は歌いながら、“ただ信じなさい、ただ信じなさい、すべてのことは可能だ、ただ信じなさい”歩き続けました。私は歌うのをやめました、まず、私は見渡しました、と彼女は言いまし

私は、神の栄光が下ることを期待しています。

ここに、信仰の自発的な拍手が起こり、

その結果、文字どおり何千人もの人々が、

あの場所へと導かれることを期待しています。

そこでは、人々が

主の衣の房に触れ、

完全にされるのです。

天の父よ、

今夜、私たちは、

あの尊い代価のために、あなたに感謝いたします。

ああ、神よ、

私たちは、主を心から愛します。

私たちがまだ罪人であった時、

主は、私たちの代わりに死んでくださいました。

カルバリにおいて、

主は、私たちの場所を取ってくださったのです。

罪を全く知らないお方でありながら、

すべての罪を負う者とされました。

主の魂は陰府に下りましたが、

あなたは、あなたの聖なるお方を、

朽ち果てるままにはなさらなかった。

そして、三日目に、主はよみがえられました。

僕のこと、覚えていますか。」

私は言いました。

「いや……すまないが、分からないな。」

すると彼は言いました。

「ある朝、聖霊があなたを、

僕の母さんの小屋へ導いたでしょう。

僕が、あそこで死にかけていた時です。」

そして、彼は続けました。

「ブラナム師、

僕は、ただ元気になっただけじゃありません。

今は、救われたんです。」

「僕は、クリスチャンになりました、

ブラナム師。」

44 ハレルヤ。

私は言います。

あの時に生きておられた神は、今日も同じ神です。

——(テープ欠落)——

期待しなさい。

あの母親は、息子のために期待していました。

神が何かをなさることを、期待していたのです。

私も、今夜、神が何かをなさることを期待しています。

あなたは、期待していますか。

た、“こんにちは、牧師。”

私は言いました、“どうしましたか、おばさん?”

そして南では説教者をParsonと呼ぶので、私は言いました。“こんにちは、おばさん。”そして私は見て、彼女の大きな太った頬に涙があふれていました。彼女は私を見て、私は言いました。“ねえ、私が説教師だとどうしてわかったの?”

彼女は言いました、“あなたが来ることを知っていました。”

39 私は言いました、“さて、私が説教師であることをどうして知ったのですか。”

言った、“聖書の中で赤ちゃんを産んだシュナム人の女性について聞いたことがありますか?”

そして私は言いました、“はい。”

“そうですね、私もそういうタイプの女性です。”彼女は言いました。「“私は一不妊でした。そして、もし主が私に子供を産んでくださるなら、私がその子供を育てると主に約束しました。”しかし、“私はできる限りのことをしました”と言いました。そして、こう言いました。“まず最初に、私の息子は間違った道を歩きました。”“彼は恐ろしい病気にかかり、そこで横たわって死につつあります。”“医師たちは彼のために何もできない、と彼は言いました。彼はもう2日間意識を失っています。医者には彼にあらゆる種類の注射をしますが、それを止めるものは何もありません。”“骨髄で行うと、”“何も追い出すことはできない、と言いました。”“彼は2日間意識を失っています”と言いましたが、“彼は背教者です”と言いました。言った、“ああ、”言った、“私は昼も夜も祈りました、「主よ、誰かを送ってください。」”そして言った、「今朝4時頃、主は私に、茶色のスーツを着た男に会いに行くように言われました。」。黒髪の小柄な男が通りを降りてくるでしょう、それが牧師でしょう。”そして彼女は言いました、「“それ以来、私はここに立っています。」。あの茶色のスーツが角を曲がって来るのを見た、”言った、“それが牧師だと知っていた。”

40 ああ、ハレルヤ。私は何について話しているのでしょうか?シメオンを導いた同じ聖霊は、今日教会を導いているのと同じ聖霊です。私は言いました、“おばさん、私の名前はブラナムです;私のことを聞いたことがありますか?”

彼女は言いました。“いいえ、ブラナム師、私はあなたのことを聞いたこと

がありません。”彼女は言いました。「“私の息子に会いに来てくれませんか？”」言った、“私は彼が背教者として死んでほしくない、” 言った、“私は彼が救われてほしい、先生。”

そして私は言いました、“はい、奥様。” 私は言いました、“おぼさん、病人のために祈ります、私の集会について聞いたことがありますか？”

彼女は言いました。“いいえ、ブラナム師。” 彼女は言いました。“私が知っている唯一のことは、主はあなたが黒髪の小柄な男で、茶色のスーツを着ているから、こんな道を通って来るだろうと言われたということです。”

ああ、シメオンの時代に生きた同じ聖霊は、今日も同じ聖霊です。深淵が深淵に呼びかけるとき、彼は来る準備ができています。

41 それから、皆さん——

あの朝のことですが……。

私はこれまで、王たちの宮殿にも入りました。

二千八百万ドル、いやそれ以上の財産を持つ

貴族たちの家にも行きました。

また、最も貧しい人々の家にも行きました。

しかし——

あの朝ほど歓迎されたことは、かつてありませんでした。

丘の向こうから朝日が昇り、

咲き誇るバラの香りを、

そっと口づけるように包み込んでいた、

あの白く塗られた小さな小屋ほど、

私を迎えてくれた場所はありませんでした。

門には古い鎖が掛かっており、

その先には、重り代わりの鋤(すき)の角がぶら下がっていました。

彼はベッドの端に腰を下ろし、

正気に戻って、私たちと話し始めました。

それから、およそ六か月後のことです。

私は列車で、アリゾナへ向かう途中でした。

その列車は——

途中、メンフィスを通りました。

私は、何か食べるものを買おうとして、

そこで列車を降りました。

あの小さな駅です。

行ったことのある方なら分かるでしょうが、

列車はまっすぐ進み、

駅舎はその前方にあります。

その時です。

誰かが大声で叫びました。

「おおい、ブラナム師！」

私は振り向きしました。

すると——

あの青年が、そこにいたのです。

彼は、駅で荷物を運ぶレッドキャップとして働いていました。

彼は走って来て、私の手をつかみ、

飛び跳ねながら言いました。

「ブラナム師、

なぜあなたが私をここへ遣わされたのか、  
私はまだ分かりません。  
それは、いつか説明されることでしょう。  
けれども、  
これまでの導き方、  
すべてがここへとつながっていることを思うと、  
私は信じます。  
こここそが、あなたが私を導かれた場所なのだと。  
あなたは、  
彼女に、私が来ることを示され、  
そして私を、この道へと導かれました。  
主よ、私に分かるのは、ただ一つです。  
私は、この死にかけている人の上に、  
あなたの御子、イエス・キリストの御名によって、  
手を置きます。  
どうか、その命をお救いください。」  
そう祈った、その瞬間でした。  
彼が叫びました。  
「ああ、母さん！」  
そして言いました。  
「部屋が……明るくなってきた。」

43 しばらくすると、

私は、その小さな家に入りました。  
中には、  
真鍮のように見える古いポスターベッドがあり、  
隅には、小さな鉄のベッド。  
藁を詰めただけの寝具が、  
マットレス代わりに置かれていました。  
ドアの上には、  
「神よ、私たちの家を祝福してください」  
と書かれていました。  
台所には、  
古い洗い桶が置いてありました。  
——でも、そこは家だったのです。  
ふと見ると、  
ベッドの上に、  
大きくて、がっしりした黒人の青年が横たわっていました。  
毛布を握りしめながら、  
こううめいていました。  
「うーん……うーん……  
暗い……うーん……」  
私は言いました。  
「おばさん、この子はどうしたのですか。」  
彼女は答えました。

「牧師さん、この子はね、  
自分が海の真ん中にいると思っているんです。」  
「ここ二日間、ずっと行方不明だったんです。  
迷ってしまって……  
今も、自分は外にいると思い込んでいるんです。」  
彼は言っていました。  
「寒い……とても寒い……」  
私は言いました。  
「おばさん、祈りましょう。」  
彼女はひざまずきました。  
そして、その年老いた聖徒の祈り——  
兄弟よ、私は言いますが、  
私はベッドの足元にひざまずいたまま、  
涙が床に落ちるのを止められませんでした。  
祈り終わると、  
彼女は立ち上がり、  
古いエプロンで目をぬぐい、こう言いました。  
「主よ、この子を死なせないでください。  
この子が、自分の母親に、  
『自分は救われた』と告げるまでは。」  
42 私は彼の足に触れてみました。  
冷たく、湿っていて——

死がその少年の上にありました。  
彼は梅毒にかかっていた。  
それが体中に回ってしまっていたのです。  
あらゆる治療が試されました。  
サルバルサン606、マーキュリー（水銀療法）、  
そのほかの薬、ペニシリンも——  
何一つ止めることができませんでした。  
病は進行し続けていました。  
悪い仲間と交わってしまったのです。  
それから私は、ひざまずきました。  
そして言いました。  
「おばさん、祈りましょう。」  
私はひざまずいて祈りました。  
「天の父よ、  
飛行機の時間は、もうとっくに過ぎてしまいました。  
一時間以上は経っています。  
けれども、あなたは  
『こちらへ向きを変えて行きなさい』と言われました。  
そして、  
『神の子らは、神の霊によって導かれる』  
とも言われています。  
父よ、